

卒業生等による大学教育評価報告書

-教育内容の改善・向上を目指して-

(平成 28 年度実施)

平成 29 年 12 月

香 川 大 学

目次

第1章 卒業生等による大学教育評価アンケート調査の概要

<卒業生によるアンケート調査>

- 1. 調査の目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 2. 調査実施期間・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 3. 調査対象・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 4. 調査内容・方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

<企業等アンケート調査>

- 1. 調査の目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 2. 調査実施期間・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 3. 調査対象・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 4. 調査内容・方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

<調査資料>

- 1. 平成28年度実施香川大学卒業生及び企業等アンケート用紙 ・ 2

第2章 調査結果について

<卒業生によるアンケート調査>

- 1. 全学的な視点からの分析・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 34
- 2. 学部に関する分析・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 39
 - 教育学部・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 40
 - 法学部・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 45
 - 経済学部・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 49
 - 医学部医学科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 51
 - 看護学科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 52
 - 工学部・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 53
 - 農学部・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 55

<企業等アンケート調査>

- 1. 全学的な視点からの分析・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 60

第1章 卒業生等による大学教育評価アンケート調査の概要

<卒業生によるアンケート調査>

1. 調査の目的 本学が提供する大学教育の成果・効果を明らかにし、本学に対する要望を把握することで、教育の改善に資することを目的とする。
2. 調査実施期間 平成29年2月8日（水）～平成29年2月27日（月）
3. 調査対象 本学卒業後3年目（H25）及び4年目（H24）の卒業生2,498人
回答数は314人、回収率は12.6%
4. 調査内容・方法 アンケート調査の質問項目は、全学的に共通する質問項目と学部独自項目を組み合わせて作成した。
アンケート調査は業務委託業者を通じて、卒業生の現住所又は在学中の保証人住所に調査用紙を郵送して実施した。

<企業等アンケート調査>

1. 調査の目的 本学が提供する大学教育の成果・効果を明らかにし、本学に対する要望を把握することで、教育の改善に資することを目的とする。
2. 調査実施期間 平成29年2月1日（水）～平成29年2月28日（火）
3. 調査対象 平成24年度～27年度に卒業した学生の就職先（卒業時に学生から申し出があった就職先）998機関
回答数は224機関、回収率は22.4%
4. 調査内容・方法 アンケート調査の質問項目は、全学的に共通する質問項目を作成した。
また、アンケート調査は学生の就職先の住所宛にアンケートに回答してもらうように文書で依頼した。アンケート様式はGoogleフォームで作成し、そのURLを知らせて、Webで回答してもらうこととし、セキュリティ等でアクセスできない場合は、FAX等で回答してもらった。

<調査資料>

1. 平成28年度実施香川大学卒業生及び企業等アンケート用紙

教育学部

平成 28 年度実施 香川大学卒業生調査【教育学部用】

【注】V. 専門教育については、「学校教育教員養成課程」、「人間発達環境課程」により設問が異なりますので、ご留意願います。

I. あなた自身についてお尋ねします。

問 1. あなたの出身学部・学科および入学年を記入してください。

() 学部 () 学科 () 課程 (講座) 等 西暦 () 年入学

問 2. あなたの性別をお答えください。

1. 男 2. 女

II. 現在の勤務先についてお尋ねします。

問 3. 現在の勤務先の就業形態についてお答えください。

1. 正規雇用で働いている →問 4 へお進みください。
2. 非正規雇用で働いている (派遣社員、アルバイト等を含む) →問 4 へお進みください。
3. 働いていない →問 6 へお進みください。

問 4. 現在の勤務先の業種は以下のどれにあたりますか。

1. 農林・水産関係 2. 建設・機械関係 3. 食品・化学関係 4. 情報・通信関係
5. 商社・金融関係 6. 販売・サービス関係 7. マスコミ・出版関係
8. 保健・衛生・医療関係 9. 公務員 (国・地方自治体) 10. 教育関係 11. その他

問 5. あなたは現在の職業に満足していますか。

1. 満足している 2. ある程度満足している 3. あまり満足していない 4. 満足していない

問 6. 転職、あるいは離職の経験はありますか。

1. ある (転職・離職の時期:)
(理由:)
2. ないが数年のうちには転職、あるいは離職したい
(理由:)
3. ない

III. 大学教育とこれまでの職業経験との関係についてお尋ねします。

問 7. あなたは大学在学中に以下のことがらにどの程度取り組んでいましたか。

	熱心に 取り組んだ	どちらかとい えば熱心に取 り組んだ	どちらかとい えば取り組ま なかった	取り組まなか った
授業 (授業時間中)	4	3	2	1
授業と関係ある学習 (予習・復習、宿題・レポート、試験勉強など)	4	3	2	1
将来を見据えた学習 (資格取得 (国家試験を含む) に向けた学習など)	4	3	2	1
学生が行う主体的な活動 (夢チャレンジプロジェクト、国際交流活動など)	4	3	2	1
インターンシップ (体験型、実践型、自主開拓などすべての形態を含む)	4	3	2	1
サークル・クラブ活動	4	3	2	1
アルバイト等の仕事経験	4	3	2	1

問 8. 以下に示すさまざまな能力は、大学教育を通じてどの程度身につきましたか。また、これまでの職業経験の中で役立っていますか。それぞれお答えください。

	身についた	どちらかといえば身についた	どちらかといえば身につかなかった	身につかなかった	役立っている	役立っていない
論述作文能力・コミュニケーション能力						
日本語を用いて、自分の意見をわかりやすく文章にまとめる力	4	3	2	1	2	1
日本語で書かれた文章の内容を的確に読み取る力	4	3	2	1	2	1
相手の意見を丁寧に聴く力	4	3	2	1	2	1
日本語を用いて、自分の意見をわかりやすく伝える力	4	3	2	1	2	1
特定の外国語を用いて、自分の意見をわかりやすく文章にまとめる力	4	3	2	1	2	1
特定の外国語で書かれた文章の内容を的確に読み取る力	4	3	2	1	2	1
特定の外国語を用いた相手の意見を聞き取る力	4	3	2	1	2	1
特定の外国語を用いて、自分の意見をわかりやすく伝える力	4	3	2	1	2	1
情報リテラシー・数量的スキル						
情報通信技術を用いて情報を収集・分析し、モラルに則って効果的に活用する力	4	3	2	1	2	1
様々な現象を、数量的なデータを用いて分析し、説明・表現する力	4	3	2	1	2	1
知識・理解						
幅広い知識や教養	4	3	2	1	2	1
専門分野に関する基礎的な知識・理解	4	3	2	1	2	1
専門分野に関する知識・理解を応用する力	4	3	2	1	2	1
職業に関連する知識や技能	4	3	2	1	2	1
問題解決・課題探究能力						
目標を設定し確実に行動する力	4	3	2	1	2	1
現状を分析し目的や課題を明らかにする力	4	3	2	1	2	1
課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力	4	3	2	1	2	1
倫理観・社会的責任						
社会のルール・マナーについて理解する力	4	3	2	1	2	1
社会のルールを守る力	4	3	2	1	2	1
社会の一員として、社会発展のために積極的に関与する力	4	3	2	1	2	1
地域理解・国際理解						
地域に貢献したいという意識	4	3	2	1	2	1
地域の風土・文化の特徴や強みを理解する力	4	3	2	1	2	1
多様な価値観を尊重し、異なる文化を理解する力	4	3	2	1	2	1
自己教育の態度						
物事に進んで取り組む力	4	3	2	1	2	1
自ら考え、学ぶことの意義を理解し、主体的に学ぶ力	4	3	2	1	2	1

IV. これまでの職業経験（社会生活含む）において、香川大学、あるいはあなたの出身学部が良かったと思う点、もっと重視したり改善したりした方が良いと思う点がございましたら、ご自由にお書きください。

V. 専門教育についてお尋ねします。 <学校教育教員養成課程卒業生用>

問 9. あなたは以下の専門科目について、どの程度満足していましたか。また現在の仕事の中でどの程度役立っていますか。それぞれお答えください。

	専門科目に				現在の仕事に			
	満足 だった	ある程度 満足 だった	やや不満 だった	不満 だった	役立って いる	ある程度 役立って いる	あまり 役立って いない	役立って いない
学校教育基礎研究(課程共通) 教職の意義や児童生徒の発達理解等	4	3	2	1	4	3	2	1
学校教育実践研究 教科研究, 学生生活研究や教育実習等	4	3	2	1	4	3	2	1
学校教育発展研究 専門領域選択科目や卒業研究等	4	3	2	1	4	3	2	1

問 10. あなたが在学中もっと勉強しておけば良かったと思う専門科目はどれですか。以下の中から当てはまるもの全てに○をつけてください。

学校教育基礎研究(課程共通)

1. 教職概論
2. 教育原論
3. 学校教育心理学・児童心理学等
4. 教育社会学・教育統計学
5. 学校教育課程論・教育の方法と技術

学校教育実践研究

1. 教科研究 (学校基礎・教科教育コースは初等教科科目と初等教科教育法、幼児教育コースは幼・初等教科科目と保育内容の指導法、特別支援教育コースは特別支援教育に関する科目)
2. 学校生活研究 (道徳教育論・特別活動論・生徒指導論・学校教育相談学)
3. 教育実地研究 (教育実習・教育実践演習等)

学校教育発展研究

1. 各専門領域選択科目
2. 自由科目
3. 卒業研究

問 11. 専門科目でもっと勉強すべきだったと思う科目を最大で3つまで挙げてください。

() () ()

問 12. 在学中に勉強した専門科目で、現在役立っていると実感している科目を最大で3つまで挙げてください。

() () ()

問 13. 教育学部に在学中、以下の事柄についてどの程度満足していましたか。

	満足していた	ある程度満足していた	やや不満だった	不満だった
教員の教授方法	4	3	2	1
教育実習など現場実習の充実	4	3	2	1
少人数によるゼミ形式の授業	4	3	2	1
勉学や進路等の相談で教員と接する機会	4	3	2	1
講義室の学習環境	4	3	2	1
自学自習のための施設	4	3	2	1

問 14. 総合的にみて、教育学部で学んだことについて満足していますか。また、その理由をお書きください。

1. 満足している 2. ある程度満足している 3. あまり満足していない 4. 満足していない

理由： []

問 15. 教育学部のカリキュラム等について、自由にご意見をお書きください。

(良かった点、不満だった点、引き続き維持すべき点、改善すべき点や、教育学部がもっと重視したほうが良いと思う教育内容や取り組み、新たに設けるべき授業科目、要望など)

ご協力大変ありがとうございました。

V. 専門教育についてお尋ねします。 <人間発達環境課程卒業生用>

問 9. あなたは以下の専門科目について、どの程度満足していましたか。また現在の仕事の中でどの程度役立っていますか。それぞれお答えください。

	専門科目に				現在の仕事に			
	満足 だった	ある程度 満足 だった	やや不満 だった	不満 だった	役立って いる	ある程度 役立って いる	あまり 役立って いない	役立って いない
基礎研究 発達と環境(課程共通)や基礎科目	4	3	2	1	4	3	2	1
実践研究 各コースの実践研究 I・II (インターンシップ)	4	3	2	1	4	3	2	1
発展研究 各コースの選択科目・特別演習・卒業研究	4	3	2	1	4	3	2	1

問 10. あなたが在学中もっと勉強しておけば良かったと思う専門科目はどれですか。以下の中から当てはまるもの全てに○をつけてください。

基礎研究

1. 発達と環境 (課程共通: 生涯発達心理学、コミュニケーション論、人間環境学 I・II、国際社会論、多文化共生論)
2. 基礎科目 (発達臨床の基礎、人間環境教育の基礎、国際理解教育の基礎)

実践研究

1. 各コースの実践研究 I・II (インターンシップ)

発展研究

1. 各コースの選択科目
2. 特別演習(ゼミ)
3. 自由科目
4. 卒業研究

問 11. 専門科目でもっと勉強すべきだったと思う科目を最大で3つまで挙げてください。

() () ()

問 12. 在学中に勉強した専門科目で、現在役立っていると実感している科目を最大で3つまで挙げてください。

() () ()

問 13. 教育学部に在学中、以下の事柄についてどの程度満足していましたか。

	満足していた	ある程度満足していた	やや不満だった	不満だった
教員の教授方法	4	3	2	1
教育実習など現場実習の充実	4	3	2	1
少人数によるゼミ形式の授業	4	3	2	1
勉学や進路等の相談で教員と接する機会	4	3	2	1
講義室の学習環境	4	3	2	1
自学自習のための施設	4	3	2	1

問 14. 総合的にみて、教育学部で学んだことについて満足していますか。また、その理由をお書きください。

1. 満足している 2. ある程度満足している 3. あまり満足していない 4. 満足していない

理由： []

問 15. 教育学部のカリキュラム等について、自由にご意見をお書きください。

(良かった点、不満だった点、引き続き維持すべき点、改善すべき点や、教育学部がもっと重視したほうが良いと思う教育内容や取り組み、新たに設けるべき授業科目、要望など)

ご協力大変ありがとうございました。

平成 28 年度実施 香川大学卒業生調査【法学部】

I. あなた自身についてお尋ねします。

問 1. あなたの出身学部・学科および入学年を記入してください。

() 学部 () 学科 () 課程 (講座) 等 西暦 () 年入学

問 2. あなたの性別をお答えください。

1. 男 2. 女

II. 現在の勤務先についてお尋ねします。

問 3. 現在の勤務先の就業形態についてお答えください。

1. 正規雇用で働いている →問 4 へお進みください。
 2. 非正規雇用で働いている (派遣社員、アルバイト等を含む) →問 4 へお進みください。
 3. 働いていない →問 6 へお進みください。

問 4. 現在の勤務先の業種は以下のどれにあたりますか。

1. 農林・水産関係 2. 建設・機械関係 3. 食品・化学関係 4. 情報・通信関係
 5. 商社・金融関係 6. 販売・サービス関係 7. マスコミ・出版関係
 8. 保健・衛生・医療関係 9. 公務員 (国・地方自治体) 10. 教育関係 11. その他

問 5. あなたは現在の職業に満足していますか。

1. 満足している 2. ある程度満足している 3. あまり満足していない 4. 満足していない

問 6. 転職、あるいは離職の経験はありますか。

1. ある (転職・離職の時期:)
 (理由:)
 2. ないが数年のうちには転職、あるいは離職したい
 (理由:)
 3. ない

III. 大学教育とこれまでの職業経験との関係についてお尋ねします。

問 7. あなたは大学在学中に以下のことがらにどの程度取り組んでいましたか。

	熱心に 取り組んだ	どちらかとい えば熱心に取 り組んだ	どちらかとい えば取り組ま なかった	取り組まなか った
授業 (授業時間中)	4	3	2	1
授業と関係ある学習 (予習・復習、宿題・レポート、試験勉強など)	4	3	2	1
将来を見据えた学習 (資格取得 (国家試験を含む) に向けた学習など)	4	3	2	1
学生が行う主体的な活動 (夢チャレンジプロジェクト、国際交流活動など)	4	3	2	1
インターンシップ (体験型、実践型、自主開拓などすべての形態を含む)	4	3	2	1
サークル・クラブ活動	4	3	2	1
アルバイト等の仕事経験	4	3	2	1

問 8. 以下に示すさまざまな能力は、大学教育を通じてどの程度身につきましたか。また、これまでの職業経験の中で役立っていますか。それぞれお答えください。

	身についた	どちらかといえば身についた	どちらかといえば身につかなかった	身につかなかった	役立っている	役立っていない
論述作文能力・コミュニケーション能力						
日本語を用いて、自分の意見をわかりやすく文章にまとめる力	4	3	2	1	2	1
日本語で書かれた文章の内容を的確に読み取る力	4	3	2	1	2	1
相手の意見を丁寧に聴く力	4	3	2	1	2	1
日本語を用いて、自分の意見をわかりやすく伝える力	4	3	2	1	2	1
特定の外国語を用いて、自分の意見をわかりやすく文章にまとめる力	4	3	2	1	2	1
特定の外国語で書かれた文章の内容を的確に読み取る力	4	3	2	1	2	1
特定の外国語を用いた相手の意見を聞き取る力	4	3	2	1	2	1
特定の外国語を用いて、自分の意見をわかりやすく伝える力	4	3	2	1	2	1
情報リテラシー・数量的スキル						
情報通信技術を用いて情報を収集・分析し、モラルに則って効果的に活用する力	4	3	2	1	2	1
様々な現象を、数量的なデータを用いて分析し、説明・表現する力	4	3	2	1	2	1
知識・理解						
幅広い知識や教養	4	3	2	1	2	1
専門分野に関する基礎的な知識・理解	4	3	2	1	2	1
専門分野に関する知識・理解を応用する力	4	3	2	1	2	1
職業に関連する知識や技能	4	3	2	1	2	1
問題解決・課題探究能力						
目標を設定し確実に行動する力	4	3	2	1	2	1
現状を分析し目的や課題を明らかにする力	4	3	2	1	2	1
課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力	4	3	2	1	2	1
倫理観・社会的責任						
社会のルール・マナーについて理解する力	4	3	2	1	2	1
社会のルールを守る力	4	3	2	1	2	1
社会の一員として、社会発展のために積極的に関与する力	4	3	2	1	2	1
地域理解・国際理解						
地域に貢献したいという意識	4	3	2	1	2	1
地域の風土・文化の特徴や強みを理解する力	4	3	2	1	2	1
多様な価値観を尊重し、異なる文化を理解する力	4	3	2	1	2	1
自己教育の態度						
物事に進んで取り組む力	4	3	2	1	2	1
自ら考え、学ぶことの意義を理解し、主体的に学ぶ力	4	3	2	1	2	1

IV. これまでの職業経験（社会生活含む）において、香川大学、あるいはあなたの出身学部が良かったと思う点、もっと重視したり改善したりした方が良いと思う点がございましたら、ご自由にお書きください。

V. 専門教育についてお尋ねします。

問9. 法学部に在学中、以下の事柄について、どの程度満足していましたか。

	満足していた	ある程度満足していた	やや不満だった	不満だった
法学部教員の授業への取組み（熱意など）	4	3	2	1
法学部教員の教授方法	4	3	2	1
授業の内容	4	3	2	1
少人数によるゼミ形式の授業（演習など）	4	3	2	1
法学部のカリキュラム全体について	4	3	2	1
勉学や進路棟の相談で法学部教員と接する機会	4	3	2	1
法学部講義室の学習環境	4	3	2	1
法学部資料室の施設（蔵書、情報機器等）	4	3	2	1

問10. 以下に示すさまざまな能力は、法学部の専門教育を通じてどの程度身につきましたか。

	身についた	ある程度身についた	あまり身につけていない	身につけていない
法律・法学に関する知識	4	3	2	1
政治・政治学に関する知識	4	3	2	1
経済活動に関する知識や関心	4	3	2	1
社会一般に関する知識や関心	4	3	2	1
現代社会への自分なりの視点	4	3	2	1
歴史的視点	4	3	2	1
幅広い視野	4	3	2	1
国際的視野	4	3	2	1
情報を収集・処理する力	4	3	2	1
問題を発見し解決する力	4	3	2	1
論理的に考える力	4	3	2	1
法的なものの考え方（リーガルマインド）	4	3	2	1
人前で報告する技能	4	3	2	1
他社と意見を交わす技能	4	3	2	1
論点を整理し、議論をまとめる技能	4	3	2	1
文書等を作成する技能	4	3	2	1
自主的に学び続ける力	4	3	2	1

問 1 1. 問 1 0 に列挙した能力は、仕事を進める上でどの程度必要とされますか。また、社会生活全般では
 どうか。それぞれお答えください。

	仕事進める上で				社会生活全般で			
	必要	ある程度必要	あまり必要ない	必要ない	必要	ある程度必要	あまり必要ない	必要ない
法律・法律学に関する知識	4	3	2	1	4	3	2	1
政治・政治学に関する知識	4	3	2	1	4	3	2	1
経済活動に関する知識や関心	4	3	2	1	4	3	2	1
社会一般に関する知識や関心	4	3	2	1	4	3	2	1
現代社会への自分なりの視点	4	3	2	1	4	3	2	1
歴史的視点	4	3	2	1	4	3	2	1
幅広い視野	4	3	2	1	4	3	2	1
国際的視野	4	3	2	1	4	3	2	1
情報を収集・処理する力	4	3	2	1	4	3	2	1
問題を発見し解決する力	4	3	2	1	4	3	2	1
論理的に考える力	4	3	2	1	4	3	2	1
法的なものの考え方（リガルマインド）	4	3	2	1	4	3	2	1
人前で報告する技能	4	3	2	1	4	3	2	1
他社と意見を交わす技能	4	3	2	1	4	3	2	1
論点を整理し、議論をまとめる技能	4	3	2	1	4	3	2	1
文書等を作成する技能	4	3	2	1	4	3	2	1
自主的に学び続ける力	4	3	2	1	4	3	2	1

問 1 2. 以下に示すような法学部の各開講科目群、及び、より一般的に「法学部で学んだ」という経験は、
 これまでの職業生活に役立っていますか。また、社会生活全般ではどうか。それぞれお答え下さい。

	これまでの職業生活に				社会生活全般に			
	役立っている	ある程度役立っている	あまり役立っていない	役立っていない	役立っている	ある程度役立っている	あまり役立っていない	役立っていない
法学基礎（1年次前期科目）	4	3	2	1	4	3	2	1
プロゼミ（2年次科目）	4	3	2	1	4	3	2	1
演習（3年～4年次必修科目）	4	3	2	1	4	3	2	1
基礎法系科目（法制史、法哲学、法社会学等）	4	3	2	1	4	3	2	1
公法系科目（憲法、行政法、税法等）	4	3	2	1	4	3	2	1
民法系科目（民法、商法、民事訴訟法等）	4	3	2	1	4	3	2	1
刑法系科目（刑法、刑事訴訟法等）	4	3	2	1	4	3	2	1
社会法系科目（労働者保護法、社会保障法等）	4	3	2	1	4	3	2	1
経済法系科目（経済法、独占禁止法等）	4	3	2	1	4	3	2	1
政治系科目（政治過程論、公共選択論、行政学等）	4	3	2	1	4	3	2	1
国際系科目（国際法、国際私法、国際社会論等）	4	3	2	1	4	3	2	1
「法学部で学んだ」という経験	4	3	2	1	4	3	2	1

問 1 3. 受講して有益だったと考える法学部開講科目を最大 3 つまで挙げてください。

() () ()

問 1 4. 在学中にもっと学んでおくべきであったと考える授業科目ないし学問分野を最大 3 つまで挙げて
 ください（法学部の開講科目や法学・政治学等の学問分野に限定する必要は必ずしもありません）。

() () ()

問 1 5. 総合的にみて、法学部で学んだことについての満足度はどうか。

1. 満足している 2. ある程度満足している 3. やや不満だった 4. 不満だった

ご協力大変ありがとうございました。

平成 28 年度実施 香川大学卒業生調査【経済学部用】

I. あなた自身についてお尋ねします。

問 1. あなたの出身学部・学科および入学年を記入してください。

() 学部 () 学科 () 課程 (講座) 等 西暦 () 年入学

問 2. あなたの性別をお答えください。

1. 男 2. 女

II. 現在の勤務先についてお尋ねします。

問 3. 現在の勤務先の就業形態についてお答えください。

1. 正規雇用で働いている →問 4 へお進みください。
 2. 非正規雇用で働いている (派遣社員、アルバイト等を含む) →問 4 へお進みください。
 3. 働いていない →問 6 へお進みください。

問 4. 現在の勤務先の業種は以下のどれにあたりますか。

1. 農林・水産関係 2. 建設・機械関係 3. 食品・化学関係 4. 情報・通信関係
 5. 商社・金融関係 6. 販売・サービス関係 7. マスコミ・出版関係
 8. 保健・衛生・医療関係 9. 公務員 (国・地方自治体) 10. 教育関係 11. その他

問 5. あなたは現在の職業に満足していますか。

1. 満足している 2. ある程度満足している 3. あまり満足していない 4. 満足していない

問 6. 転職、あるいは離職の経験はありますか。

1. ある (転職・離職の時期:)
 (理由:)
 2. ないが数年のうちには転職、あるいは離職したい
 (理由:)
 3. ない

III. 大学教育とこれまでの職業経験との関係についてお尋ねします。

問 7. あなたは大学在学中に以下のことがらにどの程度取り組んでいましたか。

	熱心に 取り組んだ	どちらかとい えば熱心に取 り組んだ	どちらかとい えば取り組ま なかった	取り組まなか った
授業 (授業時間中)	4	3	2	1
授業と関係ある学習 (予習・復習、宿題・レポート、試験勉強など)	4	3	2	1
将来を見据えた学習 (資格取得 (国家試験を含む) に向けた学習など)	4	3	2	1
学生が行う主体的な活動 (夢チャレンジプロジェクト、国際交流活動など)	4	3	2	1
インターンシップ (体験型、実践型、自主開拓などすべての形態を含む)	4	3	2	1
サークル・クラブ活動	4	3	2	1
アルバイト等の仕事経験	4	3	2	1

問 8. 以下に示すさまざまな能力は、大学教育を通じてどの程度身につきましたか。また、これまでの職業経験の中で役立っていますか。それぞれお答えください。

	身についた	どちらかといえば身についた	どちらかといえば身につかなかった	身につかなかった	役立っている	役立っていない
論述作文能力・コミュニケーション能力						
日本語を用いて、自分の意見をわかりやすく文章にまとめる力	4	3	2	1	2	1
日本語で書かれた文章の内容を的確に読み取る力	4	3	2	1	2	1
相手の意見を丁寧に聴く力	4	3	2	1	2	1
日本語を用いて、自分の意見をわかりやすく伝える力	4	3	2	1	2	1
特定の外国語を用いて、自分の意見をわかりやすく文章にまとめる力	4	3	2	1	2	1
特定の外国語で書かれた文章の内容を的確に読み取る力	4	3	2	1	2	1
特定の外国語を用いた相手の意見を聞き取る力	4	3	2	1	2	1
特定の外国語を用いて、自分の意見をわかりやすく伝える力	4	3	2	1	2	1
情報リテラシー・数量的スキル						
情報通信技術を用いて情報を収集・分析し、モラルに則って効果的に活用する力	4	3	2	1	2	1
様々な現象を、数量的なデータを用いて分析し、説明・表現する力	4	3	2	1	2	1
知識・理解						
幅広い知識や教養	4	3	2	1	2	1
専門分野に関する基礎的な知識・理解	4	3	2	1	2	1
専門分野に関する知識・理解を応用する力	4	3	2	1	2	1
職業に関連する知識や技能	4	3	2	1	2	1
問題解決・課題探究能力						
目標を設定し確実に行動する力	4	3	2	1	2	1
現状を分析し目的や課題を明らかにする力	4	3	2	1	2	1
課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力	4	3	2	1	2	1
倫理観・社会的責任						
社会のルール・マナーについて理解する力	4	3	2	1	2	1
社会のルールを守る力	4	3	2	1	2	1
社会の一員として、社会発展のために積極的に関与する力	4	3	2	1	2	1
地域理解・国際理解						
地域に貢献したいという意識	4	3	2	1	2	1
地域の風土・文化の特徴や強みを理解する力	4	3	2	1	2	1
多様な価値観を尊重し、異なる文化を理解する力	4	3	2	1	2	1
自己教育の態度						
物事に進んで取り組む力	4	3	2	1	2	1
自ら考え、学ぶことの意義を理解し、主体的に学ぶ力	4	3	2	1	2	1

IV. これまでの職業経験（社会生活含む）において、香川大学、あるいはあなたの出身学部が良かったと思う点、もっと重視したり改善したりした方が良いと思う点がございましたら、ご自由にお書きください。

V. 専門教育についてお尋ねします。

問9. 以下に示すさまざまな知識や能力は、経済学部の専門教育課程を通じて、どの程度、身につきましたか。また、それらは、これまでの職業経験の中で役立っていますか。それぞれお答えください。

	身についた	どちらかといえば身についた	どちらかといえば身につかなかった	身につかなかった	役立っている	役立っていない
経済についての知識	4	3	2	1	2	1
統計についての知識	4	3	2	1	2	1
金融についての知識	4	3	2	1	2	1
会計についての知識	4	3	2	1	2	1
経営についての知識	4	3	2	1	2	1
商学・マーケティングについての知識	4	3	2	1	2	1
観光についての知識	4	3	2	1	2	1
地域の活性化についての知識	4	3	2	1	2	1
世界各地域の経済についての知識	4	3	2	1	2	1
人類の文化および社会についての幅広い知識	4	3	2	1	2	1
定量的なデータを適切な手法を用いて分析する能力	4	3	2	1	2	1
定性的なデータを適切な手法を用いて分析する能力	4	3	2	1	2	1
複眼的な思考力	4	3	2	1	2	1
チャレンジ精神や行動力	4	3	2	1	2	1
コミュニケーション力	4	3	2	1	2	1
課題探究・解決力	4	3	2	1	2	1

問10. 以下に示す活動を通して身につけた知識や能力、経験は、これまでの職業経験の中で、どの程度、役立っていますか。

	役立っている	どちらかといえば役立っている	どちらかといえば役立っていない	役立っていない
演習・個別演習	4	3	2	1
卒業論文の執筆	4	3	2	1
学生チャレンジ・プロジェクト (参加者のみ回答)	4	3	2	1
専門履修プログラム (参加者のみ回答)	4	3	2	1
実践型/地域インターンシップ (参加者のみ回答)	4	3	2	1
海外研修・留学 (参加者のみ回答)	4	3	2	1

問11. 数年間の社会人生活を経た現在の立場から、大学時代にもっと勉強しておけばよかったと思う分野や科目があれば、ご自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。

問 8. 以下に示すさまざまな能力は、大学教育を通じてどの程度身につきましたか。また、これまでの職業経験の中で役立っていますか。それぞれお答えください。

	身についた	どちらかといえば身についた	どちらかといえば身につかなかった	身につかなかった	役立っている	役立っていない
論述作文能力・コミュニケーション能力						
日本語を用いて、自分の意見をわかりやすく文章にまとめる力	4	3	2	1	2	1
日本語で書かれた文章の内容を的確に読み取る力	4	3	2	1	2	1
相手の意見を丁寧に聴く力	4	3	2	1	2	1
日本語を用いて、自分の意見をわかりやすく伝える力	4	3	2	1	2	1
特定の外国語を用いて、自分の意見をわかりやすく文章にまとめる力	4	3	2	1	2	1
特定の外国語で書かれた文章の内容を的確に読み取る力	4	3	2	1	2	1
特定の外国語を用いた相手の意見を聞き取る力	4	3	2	1	2	1
特定の外国語を用いて、自分の意見をわかりやすく伝える力	4	3	2	1	2	1
情報リテラシー・数量的スキル						
情報通信技術を用いて情報を収集・分析し、モラルに則って効果的に活用する力	4	3	2	1	2	1
様々な現象を、数量的なデータを用いて分析し、説明・表現する力	4	3	2	1	2	1
知識・理解						
幅広い知識や教養	4	3	2	1	2	1
専門分野に関する基礎的な知識・理解	4	3	2	1	2	1
専門分野に関する知識・理解を応用する力	4	3	2	1	2	1
職業に関連する知識や技能	4	3	2	1	2	1
問題解決・課題探究能力						
目標を設定し確実に行動する力	4	3	2	1	2	1
現状を分析し目的や課題を明らかにする力	4	3	2	1	2	1
課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力	4	3	2	1	2	1
倫理観・社会的責任						
社会のルール・マナーについて理解する力	4	3	2	1	2	1
社会のルールを守る力	4	3	2	1	2	1
社会の一員として、社会発展のために積極的に関与する力	4	3	2	1	2	1
地域理解・国際理解						
地域に貢献したいという意識	4	3	2	1	2	1
地域の風土・文化の特徴や強みを理解する力	4	3	2	1	2	1
多様な価値観を尊重し、異なる文化を理解する力	4	3	2	1	2	1
自己教育の態度						
物事に進んで取り組む力	4	3	2	1	2	1
自ら考え、学ぶことの意義を理解し、主体的に学ぶ力	4	3	2	1	2	1

IV. これまでの職業経験（社会生活含む）において、香川大学、あるいはあなたの出身学部が良かったと思う点、もっと重視したり改善したりした方が良いと思う点がございましたら、ご自由にお書きください。

V. あなた自身についてお尋ねします。

問 9. あなたの大学入学時の自宅所在地（都道府県名）と、現在の自宅所在地（都道府県名）をお答えください。

入学時：() 都・道・府・県 現在：() 都・道・府・県

問 10. 現在のあなたの職種・就業状況は次のどれですか。（複数該当する場合は、主要なもの一つに○をつけて下さい。）

1. 臨床医（勤務医） 2. 臨床医（開業医） 3. 研修医（前期・後期） 4. 教育・研究職（大学等の助教以上）
5. 非常勤医 6. 大学院生 7. 無職 8. その他（ ）

問 11. と問 12. は、問 10. で、1～6 と回答した方にお聞きます。

問 11. 現在所属している講座または診療科は次のどれですか。

研修医の方は、将来志望する科をお答え下さい。

1. 基礎医学系 2. 内科系 3. 外科系 4. 社会医学系 5. その他（ ）

問 12. 現在の勤務場所は次のどれですか。

1. 大学を含む教育機関（大学附属病院を含む） 2. 病院 3. 診療所 4. 福祉施設 5. その他（ ）

VI. 在学当時の学習や活動についてお尋ねします。

問 13. あなたは以下の項目についてどの程度満足していましたか。

医学部の教育について	4. 満足だった				3. ある程度満足だった				2. やや不満だった				1. 不満だった							
	シラバスの充実度（教育内容や評価法などが適切に記載されていたか）				教育法（講義・実習の内容が適切に行われたか）				学習法（授業ガイダンスなど科目ごとに学習法についての説明が当該科目の教員からあったか）				カリキュラム（講義や実習の進捗、スケジュールやボリュームが適切であったか）				評価法（出席・レポート・試験等）が適切で、シラバスに記載された通りに行われたか）			
教養科目	4	3	2	1	4	3	2	1	4	3	2	1	4	3	2	1	4	3	2	1
基礎医学系科目	4	3	2	1	4	3	2	1	4	3	2	1	4	3	2	1	4	3	2	1
社会医学系科目	4	3	2	1	4	3	2	1	4	3	2	1	4	3	2	1	4	3	2	1
臨床医学系科目	4	3	2	1	4	3	2	1	4	3	2	1	4	3	2	1	4	3	2	1
外国語科目	4	3	2	1	4	3	2	1	4	3	2	1	4	3	2	1	4	3	2	1
医学部での学習・生活支援																				
	満足だった				ある程度満足だった				やや不満だった				不満だった							
授業以外で教員と接する機会	4				3				2				1							
指導教員制度	4				3				2				1							
図書館の施設や蔵書	4				3				2				1							
情報処理関係施設や機器	4				3				2				1							
学生の交流スペース	4				3				2				1							
クラブ・サークル関係施設・設備等	4				3				2				1							
自習室	4				3				2				1							

問14. 以下に示すさまざまな能力は大学教育を通じてどの程度身につきましたか。また、現在の仕事の中でどの程度必要とされていますか。それぞれお答えください。

	大学教育で				現在の仕事で			
	身についた	ある程度身についた	あまり身についていない	身についていない	必要	ある程度必要	あまり必要ない	必要ない
医学の基礎知識	4	3	2	1	4	3	2	1
医学の基本的技術	4	3	2	1	4	3	2	1
科学的分析力と探究能力	4	3	2	1	4	3	2	1
医学の視点から、問題を総合的に分析・判断・解決する能力	4	3	2	1	4	3	2	1
自己の実践を批判的に分析し、創造的に発展させる能力	4	3	2	1	4	3	2	1
患者・家族と人間関係を形成する能力	4	3	2	1	4	3	2	1
医療職者間で協働・連携する能力	4	3	2	1	4	3	2	1
人間の尊厳・人権を尊重する態度の形成	4	3	2	1	4	3	2	1
医療人に求められるモラルや礼儀、社会的責任	4	3	2	1	4	3	2	1
専門職業人として生涯自己研鑽する能力	4	3	2	1	4	3	2	1

問15.

国家資格の取得に必要な教育が行われていましたか。	行われていた 4	ある程度行われていた 3	あまり行われていなかった 2	行われていない 1
--------------------------	-------------	-----------------	-------------------	--------------

問16. 国家資格の取得に必要な教育・指導体制として、大学が今後取り入れたら良いと思う事柄について、ご記入下さい。

--

問17.

総合的にみて、本学医学部で学んだことについての満足度はどうですか。	満足している 4	ある程度満足している 3	やや不満だった 2	不満だった 1
-----------------------------------	-------------	-----------------	--------------	------------

ご協力大変ありがとうございました。

問 8. 以下に示すさまざまな能力は、大学教育を通じてどの程度身につきましたか。また、これまでの職業経験の中で役立っていますか。それぞれお答えください。

	身についた	どちらかといえば身についた	どちらかといえば身につかなかった	身につかなかった	役立っている	役立っていない
論述作文能力・コミュニケーション能力						
日本語を用いて、自分の意見をわかりやすく文章にまとめる力	4	3	2	1	2	1
日本語で書かれた文章の内容を的確に読み取る力	4	3	2	1	2	1
相手の意見を丁寧に聴く力	4	3	2	1	2	1
日本語を用いて、自分の意見をわかりやすく伝える力	4	3	2	1	2	1
特定の外国語を用いて、自分の意見をわかりやすく文章にまとめる力	4	3	2	1	2	1
特定の外国語で書かれた文章の内容を的確に読み取る力	4	3	2	1	2	1
特定の外国語を用いた相手の意見を聞き取る力	4	3	2	1	2	1
特定の外国語を用いて、自分の意見をわかりやすく伝える力	4	3	2	1	2	1
情報リテラシー・数量的スキル						
情報通信技術を用いて情報を収集・分析し、モラルに則って効果的に活用する力	4	3	2	1	2	1
様々な現象を、数量的なデータを用いて分析し、説明・表現する力	4	3	2	1	2	1
知識・理解						
幅広い知識や教養	4	3	2	1	2	1
専門分野に関する基礎的な知識・理解	4	3	2	1	2	1
専門分野に関する知識・理解を応用する力	4	3	2	1	2	1
職業に関連する知識や技能	4	3	2	1	2	1
問題解決・課題探究能力						
目標を設定し確実に行動する力	4	3	2	1	2	1
現状を分析し目的や課題を明らかにする力	4	3	2	1	2	1
課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力	4	3	2	1	2	1
倫理観・社会的責任						
社会のルール・マナーについて理解する力	4	3	2	1	2	1
社会のルールを守る力	4	3	2	1	2	1
社会の一員として、社会発展のために積極的に関与する力	4	3	2	1	2	1
地域理解・国際理解						
地域に貢献したいという意識	4	3	2	1	2	1
地域の風土・文化の特徴や強みを理解する力	4	3	2	1	2	1
多様な価値観を尊重し、異なる文化を理解する力	4	3	2	1	2	1
自己教育の態度						
物事に進んで取り組む力	4	3	2	1	2	1
自ら考え、学ぶことの意義を理解し、主体的に学ぶ力	4	3	2	1	2	1

IV. これまでの職業経験（社会生活含む）において、香川大学、あるいはあなたの出身学部が良かったと思う点、もっと重視したり改善したりした方が良いと思う点がございましたら、ご自由にお書きください。

V. あなた自身についてお尋ねします。

問9. あなたの大学入学時の自宅所在地（都道府県名）と、現在の自宅所在地（都道府県名）をお答えください。

入学時：() 都・道・府・県 現在：() 都・道・府・県

問10. 現在のあなたの職種は次のどれですか。

1. 看護師 2. 保健師 3. 助産師 4. 養護教諭 5. 看護教員
6. 大学院生 7. 無職 8. その他 ()

問11. 現在の勤務場所は次のどれですか。

1. 大学を含む看護師教育機関 2. 大学附属病院 3. 病院
4. 診療所 5. 福祉施設 6. 地方公共団体（保健所を含む）
7. 小・中・高校 8. その他 ()

問12. 現在の就業状況についてお答えください。（無職の方を除く）

1. 正規雇用で働いている
2. 非正規雇用で働いている（非常勤職員、パート等を含む）

VI. 在学当時の学習や活動についてお尋ねします。

問13. あなたは以下の項目についてどの程度満足していましたか。

	満足だった	ある程度満足だった	やや不満だった	不満だった
大学教育				
専門基礎科目全般（解剖学・生理学・微生物学・薬剤療養学・栄養学・基礎保健学・疫学など）	4	3	2	1
専門科目全般（臨地実習を除く）	4	3	2	1
臨地実習科目全般	4	3	2	1
学習・生活支援				
授業以外で教員と接する機会	4	3	2	1
指導教員制度	4	3	2	1
図書館の施設や蔵書	4	3	2	1
情報処理関係施設や機器	4	3	2	1
学生の交流スペース	4	3	2	1
クラブ・サークル関係施設・設備等	4	3	2	1
自習室	4	3	2	1

問14. 以下に示すさまざまな能力は大学教育を通じてどの程度身につきましたか。また、現在の仕事の中でどの程度必要とされていますか。
（専門教育全般）

	大学教育で				現在の仕事で			
	身についた	ある程度身についた	あまり身につけていない	身につけていない	必要	ある程度必要	あまり必要ない	必要ない
看護学の基礎知識	4	3	2	1	4	3	2	1
看護学の基本的技術	4	3	2	1	4	3	2	1
科学的分析力と探究能力	4	3	2	1	4	3	2	1
看護の視点から問題を総合的に分析・判断・解決する能力	4	3	2	1	4	3	2	1
自己の実践を批判的に分析し、創造的に発展させる能力	4	3	2	1	4	3	2	1
患者・家族と人間関係を形成する能力	4	3	2	1	4	3	2	1
医療職者間で協働・連携する能力	4	3	2	1	4	3	2	1
人間の尊厳・人権を尊重する態度の形成	4	3	2	1	4	3	2	1
医療人に求められるモラルや礼儀	4	3	2	1	4	3	2	1
専門職業人として生涯自己研鑽する能力	4	3	2	1	4	3	2	1

問15.

国家資格の取得に必要な教育が行われていましたか。	行われていた 4	ある程度行われていた 3	あまり行われていなかった 2	行われていない 1
--------------------------	-------------	-----------------	-------------------	--------------

問16. 国家資格の取得に必要な教育・指導体制として、大学が今後取り入れたら良いと思う事柄について、ご記入下さい。

--

問17.

総合的にみて、本学医学部で学んだことについての満足度はどうですか。	満足している 4	ある程度満足している 3	やや不満だった 2	不満だった 1
-----------------------------------	-------------	-----------------	--------------	------------

ご協力大変ありがとうございました。

平成 28 年度実施 香川大学卒業生調査【工学部用】

I. あなた自身についてお尋ねします。

問 1. あなたの出身学部・学科および入学年を記入してください。

() 学部 () 学科 () 課程 (講座) 等 西暦 () 年入学

問 2. あなたの性別をお答えください。

1. 男 2. 女

II. 現在の勤務先についてお尋ねします。

問 3. 現在の勤務先の就業形態についてお答えください。

1. 正規雇用で働いている →問 4 へお進みください。
 2. 非正規雇用で働いている (派遣社員、アルバイト等を含む) →問 4 へお進みください。
 3. 働いていない →問 6 へお進みください。

問 4. 現在の勤務先の業種は以下のどれにあたりますか。

1. 農林・水産関係 2. 建設・機械関係 3. 食品・化学関係 4. 情報・通信関係
 5. 商社・金融関係 6. 販売・サービス関係 7. マスコミ・出版関係
 8. 保健・衛生・医療関係 9. 公務員 (国・地方自治体) 10. 教育関係 11. その他

問 5. あなたは現在の職業に満足していますか。

1. 満足している 2. ある程度満足している 3. あまり満足していない 4. 満足していない

問 6. 転職、あるいは離職の経験はありますか。

1. ある (転職・離職の時期:)
 (理由:)
 2. ないが数年のうちには転職、あるいは離職したい
 (理由:)
 3. ない

III. 大学教育とこれまでの職業経験との関係についてお尋ねします。

問 7. あなたは大学在学中に以下のことがらにどの程度取り組んでいましたか。

	熱心に 取り組んだ	どちらかとい えば熱心に取 り組んだ	どちらかとい えば取り組ま なかった	取り組まなか った
授業 (授業時間中)	4	3	2	1
授業と関係ある学習 (予習・復習、宿題・レポート、試験勉強など)	4	3	2	1
将来を見据えた学習 (資格取得 (国家試験を含む) に向けた学習など)	4	3	2	1
学生が行う主体的な活動 (夢チャレンジプロジェクト、国際交流活動など)	4	3	2	1
インターンシップ (体験型、実践型、自主開拓などすべての形態を含む)	4	3	2	1
サークル・クラブ活動	4	3	2	1
アルバイト等の仕事経験	4	3	2	1

問 8. 以下に示すさまざまな能力は、大学教育を通じてどの程度身につきましたか。また、これまでの職業経験の中で役立っていますか。それぞれお答えください。

	身についた	どちらかといえば身についた	どちらかといえば身につかなかった	身につかなかった	役立っている	役立っていない
論述作文能力・コミュニケーション能力						
日本語を用いて、自分の意見をわかりやすく文章にまとめる力	4	3	2	1	2	1
日本語で書かれた文章の内容を的確に読み取る力	4	3	2	1	2	1
相手の意見を丁寧に聴く力	4	3	2	1	2	1
日本語を用いて、自分の意見をわかりやすく伝える力	4	3	2	1	2	1
特定の外国語を用いて、自分の意見をわかりやすく文章にまとめる力	4	3	2	1	2	1
特定の外国語で書かれた文章の内容を的確に読み取る力	4	3	2	1	2	1
特定の外国語を用いた相手の意見を聞き取る力	4	3	2	1	2	1
特定の外国語を用いて、自分の意見をわかりやすく伝える力	4	3	2	1	2	1
情報リテラシー・数量的スキル						
情報通信技術を用いて情報を収集・分析し、モラルに則って効果的に活用する力	4	3	2	1	2	1
様々な現象を、数量的なデータを用いて分析し、説明・表現する力	4	3	2	1	2	1
知識・理解						
幅広い知識や教養	4	3	2	1	2	1
専門分野に関する基礎的な知識・理解	4	3	2	1	2	1
専門分野に関する知識・理解を応用する力	4	3	2	1	2	1
職業に関連する知識や技能	4	3	2	1	2	1
問題解決・課題探究能力						
目標を設定し確実に行動する力	4	3	2	1	2	1
現状を分析し目的や課題を明らかにする力	4	3	2	1	2	1
課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力	4	3	2	1	2	1
倫理観・社会的責任						
社会のルール・マナーについて理解する力	4	3	2	1	2	1
社会のルールを守る力	4	3	2	1	2	1
社会の一員として、社会発展のために積極的に関与する力	4	3	2	1	2	1
地域理解・国際理解						
地域に貢献したいという意識	4	3	2	1	2	1
地域の風土・文化の特徴や強みを理解する力	4	3	2	1	2	1
多様な価値観を尊重し、異なる文化を理解する力	4	3	2	1	2	1
自己教育の態度						
物事に進んで取り組む力	4	3	2	1	2	1
自ら考え、学ぶことの意義を理解し、主体的に学ぶ力	4	3	2	1	2	1

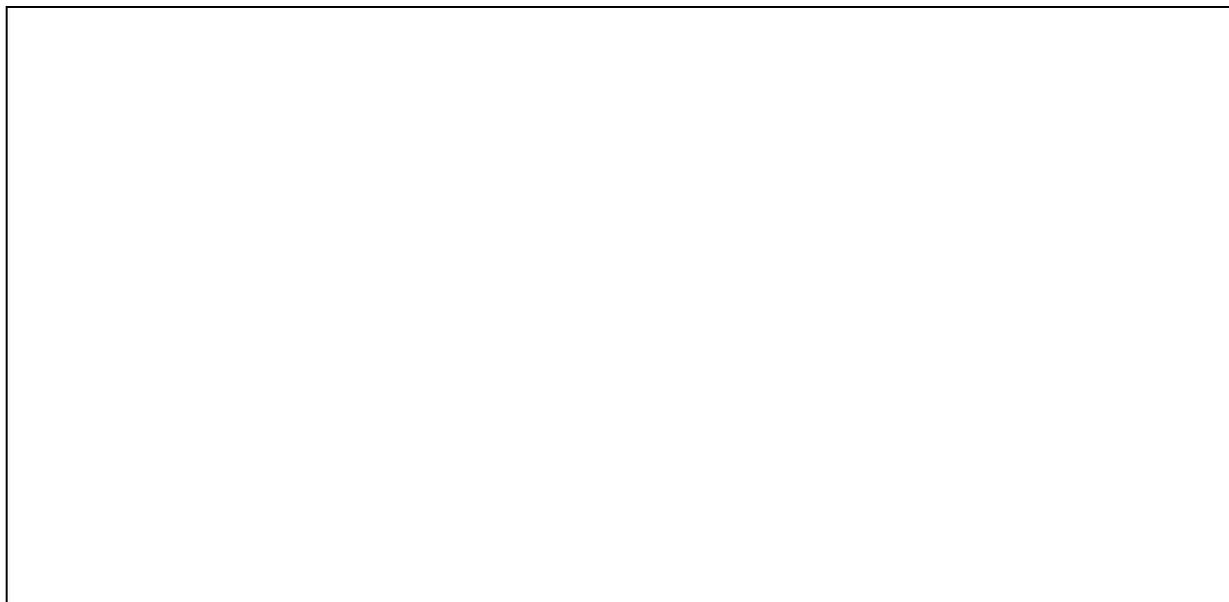
IV. これまでの職業経験（社会生活含む）において、香川大学、あるいはあなたの出身学部が良かったと思う点、もっと重視したり改善したりした方が良いと思う点がございましたら、ご自由にお書きください。

V. 専門教育についてお尋ねします。

問9. 以下に示すさまざまな能力や知識等については、香川大学工学部の専門教育を通じてどの程度身につきましたか。また、これまでの職業経験の中で役立っていますか。それぞれお答えください。

	身についた	どちらかと言え ば身についた	どちらかと言え ば身につかなかった	身につかなかった	役立っている	役立っていない
言語運用能力						
論理的かつ客観的な文書を作成することができる力	4	3	2	1	2	1
多様な情報を適切に利用し、効果的なプレゼンテーションを行うことができる力	4	3	2	1	2	1
工学的な課題について、基礎的な数理法則を用いて分析することができる力	4	3	2	1	2	1
英語による情報収集能力、コミュニケーション能力	4	3	2	1	2	1
国際的視野を持ち、世界標準の科学技術に関する情報を収集できる力	4	3	2	1	2	1
知識・理解						
自然科学の基礎知識およびその基本原理の理解	4	3	2	1	2	1
工学的課題を解決するために必要な工学的基礎知識	4	3	2	1	2	1
人間、社会、環境についての多角的な視点	4	3	2	1	2	1
問題解決・課題探求能力						
自主的、継続的に学習し、新たな課題を探求することができる力	4	3	2	1	2	1
専門分野において課題を認識し、その解決に向けて企画、立案し、遂行することができる力	4	3	2	1	2	1
多様な制約の下で、専門知識、技術を用いて、必要に応じ他者と協力して問題を解決することができる力	4	3	2	1	2	1
倫理観・社会的責任						
市民としての社会的責任を自覚して行動することができる力	4	3	2	1	2	1
工学倫理に則って、技術者としての社会的役割を担うことができる力	4	3	2	1	2	1
地域理解						
地域の現状と課題に関心を持ち、自己と関連づけて問題を発見し、探求することができる力	4	3	2	1	2	1

- 問10. 工学部のカリキュラムについて自由にご意見をお書き下さい。
(工学部がもっと重視したほうが良いと思う教育内容や取り組みなど)



ご協力大変ありがとうございました。

平成 28 年度実施 香川大学卒業生調査【農学部用】

I. あなた自身についてお尋ねします。

問 1. あなたの出身学部・学科および入学年を記入してください。

() 学部 () 学科 () 課程 (講座) 等 西暦 () 年入学

問 2. あなたの性別をお答えください。

1. 男 2. 女

II. 現在の勤務先についてお尋ねします。

問 3. 現在の勤務先の就業形態についてお答えください。

1. 正規雇用で働いている →問 4 へお進みください。
 2. 非正規雇用で働いている (派遣社員、アルバイト等を含む) →問 4 へお進みください。
 3. 働いていない →問 6 へお進みください。

問 4. 現在の勤務先の業種は以下のどれにあたりますか。

1. 農林・水産関係 2. 建設・機械関係 3. 食品・化学関係 4. 情報・通信関係
 5. 商社・金融関係 6. 販売・サービス関係 7. マスコミ・出版関係
 8. 保健・衛生・医療関係 9. 公務員 (国・地方自治体) 10. 教育関係 11. その他

問 5. あなたは現在の職業に満足していますか。

1. 満足している 2. ある程度満足している 3. あまり満足していない 4. 満足していない

問 6. 転職、あるいは離職の経験はありますか。

1. ある (転職・離職の時期:)
 (理由:)
 2. ないが数年のうちには転職、あるいは離職したい
 (理由:)
 3. ない

III. 大学教育とこれまでの職業経験との関係についてお尋ねします。

問 7. あなたは大学在学中に以下のことがらにどの程度取り組んでいましたか。

	熱心に 取り組んだ	どちらかとい えば熱心に取 り組んだ	どちらかとい えば取り組ま なかった	取り組まなか った
授業 (授業時間中)	4	3	2	1
授業と関係ある学習 (予習・復習、宿題・レポート、試験勉強など)	4	3	2	1
将来を見据えた学習 (資格取得 (国家試験を含む) に向けた学習など)	4	3	2	1
学生が行う主体的な活動 (夢チャレンジプロジェクト、国際交流活動など)	4	3	2	1
インターンシップ (体験型、実践型、自主開拓などすべての形態を含む)	4	3	2	1
サークル・クラブ活動	4	3	2	1
アルバイト等の仕事経験	4	3	2	1

問 8. 以下に示すさまざまな能力は、大学教育を通じてどの程度身につきましたか。また、これまでの職業経験の中で役立っていますか。それぞれお答えください。

	身についた	どちらかといえば身についた	どちらかといえば身につかなかった	身につかなかった	役立っている	役立っていない
論述作文能力・コミュニケーション能力						
日本語を用いて、自分の意見をわかりやすく文章にまとめる力	4	3	2	1	2	1
日本語で書かれた文章の内容を的確に読み取る力	4	3	2	1	2	1
相手の意見を丁寧に聴く力	4	3	2	1	2	1
日本語を用いて、自分の意見をわかりやすく伝える力	4	3	2	1	2	1
特定の外国語を用いて、自分の意見をわかりやすく文章にまとめる力	4	3	2	1	2	1
特定の外国語で書かれた文章の内容を的確に読み取る力	4	3	2	1	2	1
特定の外国語を用いた相手の意見を聞き取る力	4	3	2	1	2	1
特定の外国語を用いて、自分の意見をわかりやすく伝える力	4	3	2	1	2	1
情報リテラシー・数量的スキル						
情報通信技術を用いて情報を収集・分析し、モラルに則って効果的に活用する力	4	3	2	1	2	1
様々な現象を、数量的なデータを用いて分析し、説明・表現する力	4	3	2	1	2	1
知識・理解						
幅広い知識や教養	4	3	2	1	2	1
専門分野に関する基礎的な知識・理解	4	3	2	1	2	1
専門分野に関する知識・理解を応用する力	4	3	2	1	2	1
職業に関連する知識や技能	4	3	2	1	2	1
問題解決・課題探究能力						
目標を設定し確実に行動する力	4	3	2	1	2	1
現状を分析し目的や課題を明らかにする力	4	3	2	1	2	1
課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力	4	3	2	1	2	1
倫理観・社会的責任						
社会のルール・マナーについて理解する力	4	3	2	1	2	1
社会のルールを守る力	4	3	2	1	2	1
社会の一員として、社会発展のために積極的に関与する力	4	3	2	1	2	1
地域理解・国際理解						
地域に貢献したいという意識	4	3	2	1	2	1
地域の風土・文化の特徴や強みを理解する力	4	3	2	1	2	1
多様な価値観を尊重し、異なる文化を理解する力	4	3	2	1	2	1
自己教育の態度						
物事に進んで取り組む力	4	3	2	1	2	1
自ら考え、学ぶことの意義を理解し、主体的に学ぶ力	4	3	2	1	2	1

IV. これまでの職業経験（社会生活含む）において、香川大学、あるいはあなたの出身学部が良かったと思う点、もっと重視したり改善したりした方が良いと思う点がございましたら、ご自由にお書きください。

V. 農学部での専門教育についてお尋ねします。

問9. あなたは在学中に以下の項目にどの程度充実（満足）していましたか。

	充実していた	ある程度充実していた	やや充実していなかった	充実していなかった
専門教育				
導入ならびに共通基礎科目	4	3	2	1
コース専門科目	4	3	2	1
共通展開科目	4	3	2	1
コース実験またはフィールド実習	4	3	2	1
課題研究	4	3	2	1
インターンシップ（該当者のみ）	4	3	2	1
学習・生活支援				
農学部教員との交流	4	3	2	1
農学部における友人との交流	4	3	2	1
農学部における学生相談窓口	4	3	2	1

問10. 以下に示す農学部での学習や経験は、これまでの職業生活に役立っていますか。
また、社会生活全般に役立っていますか。それぞれお答え下さい。

	これまでの職業生活に				社会生活全般に			
	役立っている	ある程度役立っている	あまり役立っていない	役立っていない	役立っている	ある程度役立っている	あまり役立っていない	役立っていない
専門教育								
導入ならびに共通基礎科目	4	3	2	1	4	3	2	1
コース専門科目	4	3	2	1	4	3	2	1
共通展開科目	4	3	2	1	4	3	2	1
コース実験またはフィールド実習	4	3	2	1	4	3	2	1
課題研究	4	3	2	1	4	3	2	1
インターンシップ（該当者のみ）	4	3	2	1	4	3	2	1
学生生活								
研究室での活動	4	3	2	1	4	3	2	1
就職活動	4	3	2	1	4	3	2	1
友人との交流	4	3	2	1	4	3	2	1

問11. 受講して有益だったと考える農学部開講科目を最大三つまで挙げてください。

()

()

()

問 1 2. 総合的にみて、農学部で学んだことについての満足度はどうですか。

1. 満足している
2. ある程度満足している
3. やや不満だった
4. 不満だった

問 1 3. 農学部の授業やカリキュラムについて自由にご意見をお書き下さい。

ご協力大変ありがとうございました。

香川大学卒業生に対するアンケート調査（企業・官庁等用）

問 1. 貴組織の事業（主たるもの）についてお答えください。

- | | | |
|--------------|---------------|-----------------|
| 1. 農林・水産関係 | 2. 建設・機械関係 | 3. 食品・化学関係 |
| 4. 情報・通信関係 | 5. 商社・金融関係 | 6. 販売・サービス関係 |
| 7. マスコミ・出版関係 | 8. 保健・衛生・医療関係 | 9. 公務員（国・地方自治体） |
| 10. 教育関係 | 11. その他（ | ） |

問 2. 貴組織の従業員数についてお答えください。

- | | | |
|------------------|---------------|----------------|
| 1. 10 人未満 | 2. 10～100 人未満 | 3. 100～500 人未満 |
| 4. 500～1,000 人未満 | 5. 1,000 人以上 | |

問 3. 貴組織における直近 4 ヶ年の香川大学卒業生の採用数について、概数をお答えください。

- | | | | |
|----------|------------|-------------|-----------|
| 1. 3 人未満 | 2. 3～5 人未満 | 3. 5～10 人未満 | 4. 10 人以上 |
|----------|------------|-------------|-----------|

問 4. 貴組織における直近 4 ヶ年の香川大学卒業生に対する満足度をお答えください。

- | | | | |
|-------|-----------|---------|-------|
| 1. 満足 | 2. ある程度満足 | 3. やや不満 | 4. 不満 |
|-------|-----------|---------|-------|

問 5. 香川大学卒業生は、現在担当している職務を遂行する上で必要とされる以下のような能力をどの程度身につけていますか（必要とされない能力は「必要とされない」をお選びください）。

	身につけている	どちらかといえば身につけている	どちらかといえば身につけていない	身につけていない	必要とされない
論述作文能力・コミュニケーション能力					
日本語を用いて、自分の意見をわかりやすく文章にまとめる力	4	3	2	1	0
日本語で書かれた文章の内容を的確に読み取る力	4	3	2	1	0
相手の意見を丁寧に聴く力	4	3	2	1	0
日本語を用いて、自分の意見をわかりやすく伝える力	4	3	2	1	0
特定の外国語を用いて、自分の意見をわかりやすく文章にまとめる力	4	3	2	1	0
特定の外国語で書かれた文章の内容を的確に読み取る力	4	3	2	1	0
特定の外国語を用いた相手の意見を聞き取る力	4	3	2	1	0
特定の外国語を用いて、自分の意見をわかりやすく伝える力	4	3	2	1	0

情報リテラシー・数量的スキル					
情報通信技術を用いて情報を収集・分析し、モラルに則って効果的に活用する力	4	3	2	1	0
様々な現象を、数量的なデータを用いて分析し、説明・表現する力	4	3	2	1	0
知識・理解					
幅広い知識や教養	4	3	2	1	0
専門分野に関する基礎的な知識・理解	4	3	2	1	0
専門分野に関する知識・理解を応用する力	4	3	2	1	0
職業に関連する知識や技能	4	3	2	1	0
問題解決・課題探究能力					
目標を設定し確実に行動する力	4	3	2	1	0
現状を分析し目的や課題を明らかにする力	4	3	2	1	0
課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力	4	3	2	1	0
倫理観・社会的責任					
社会のルール・マナーについて理解する力	4	3	2	1	0
社会のルールを守る力	4	3	2	1	0
社会の一員として、社会発展のために積極的に関与する力	4	3	2	1	0
地域理解					
地域に貢献したいという意識	4	3	2	1	0
地域の風土・文化の特徴や強みを理解する力	4	3	2	1	0
多様な価値観を尊重し、異なる文化を理解する力	4	3	2	1	0
自己教育の態度					
物事に進んで取り組む力	4	3	2	1	0
自ら考え、学ぶことの意義を理解し、主体的に学ぶ力	4	3	2	1	0

問6. 香川大学に対するご意見やご要望等がございましたら、自由にお書きください。

第2章 調査結果について

<卒業生によるアンケート調査>

1. 全学的な視点からの分析

(1) 分析結果

- ①大学教育で身についた能力と現在の仕事での有用性（問8）・・・図表1、2参照

大学教育で身についた能力

倫理観、知識・理解、自己教育の態度が特に身についている（8割超）

外国語運用能力が特に身につけていない（3割以下）

現在の仕事での有用性

倫理観、論述作文能力・コミュニケーション能力、自己教育の態度が特に役に立った（85%超）

外国語運用能力が特に役立っていない（25%以下）

正の値でギャップが大きい（有用性に対して身につけていない）

論述作文能力・コミュニケーション能力

- ②在学中の取組（問7）・・・図表3参照

授業や授業と関係のある学習、アルバイト等の仕事経験に熱心に取り組んだ者は8割。

学生が行う主体的な活動（21.4%）、インターンシップ（29.7%）の該当者が少ない。

- ③現在の職業の満足度（問5）・・・図表4参照

約9割が満足している。

(2) 優れた点及び改善を要する点

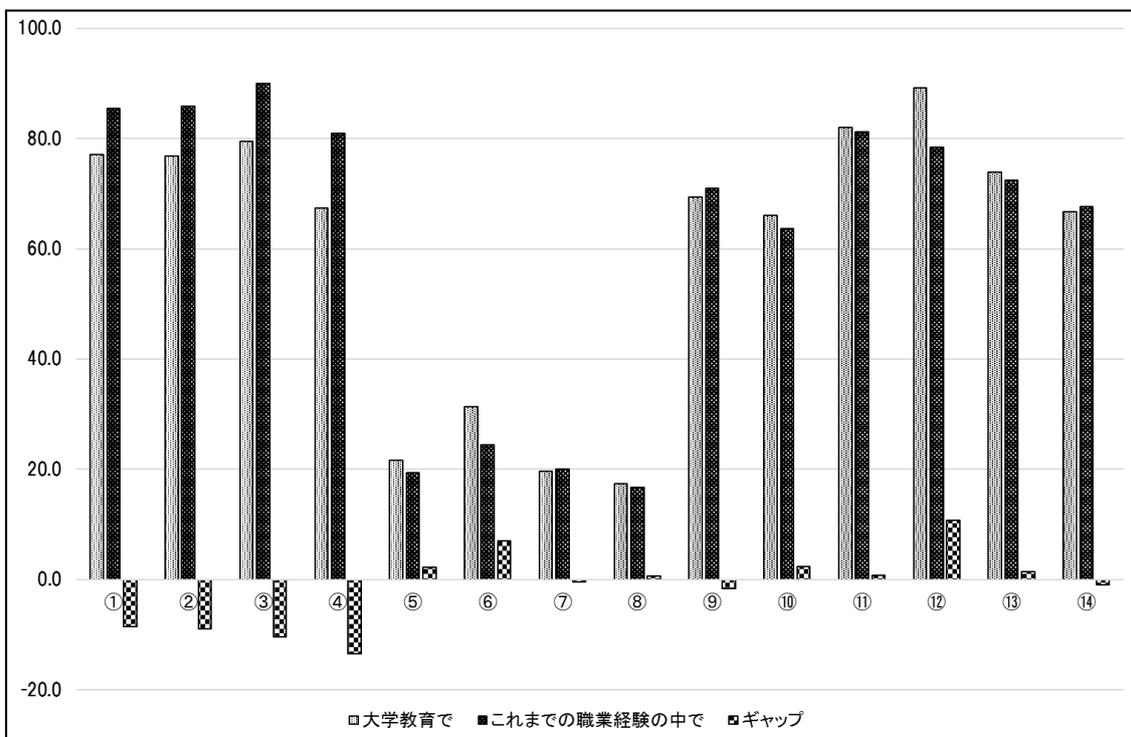
【優れた点】

現在の職業に対する満足度が高い。また、在学中に授業や授業と関係のある学習、アルバイト等の仕事経験に熱心に取り組んでいる者も多く、充実した大学生活の様子がうかがえる。能力については、倫理観、知識・理解、自己教育の態度が特に身につけている。

【改善を要する点】

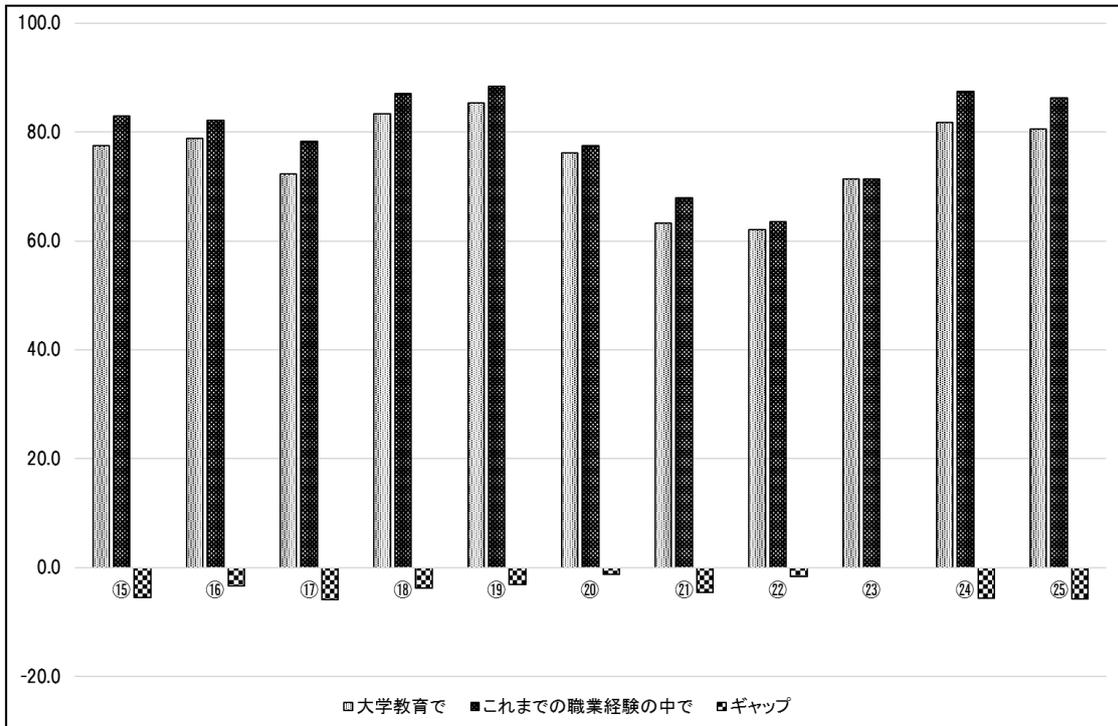
大学教育を通しての外国語運用能力の育成が課題。論述作文能力・コミュニケーション能力を育成する大学のカリキュラムの充実、学生が行う主体的な活動・インターンシップの活性化が求められる。

【参考資料】



注：各番号は次のとおり対応している。①日本語を用いて、自分の意見をわかりやすく文章にまとめる力、②日本語で書かれた文章の内容を的確に読み取る力、③相手の意見を丁寧に聴く力、④日本語を用いて、自分の意見をわかりやすく伝える力、⑤特定の外国語を用いて、自分の意見をわかりやすく文章にまとめる力、⑥特定の外国語で書かれた文章の内容を的確に読み取る力、⑦特定の外国語を用いた相手の意見を聞き取る力、⑧特定の外国語を用いて、自分の意見をわかりやすく伝える力、⑨情報通信技術を用いて情報を収集・分析し、モラルに則って効果的に活用する力、⑩様々な現象を、数量的なデータを用いて分析し、説明・表現する力、⑪幅広い知識や教養、⑫専門分野に関する基礎的な知識・理解、⑬専門分野に関する知識・理解を応用する力、⑭職業に関連する知識や技能。表記は%、以下の図表でも同様である。値はそれぞれ「大学教育で」は、「身についた」「どちらかといえば身についた」の合計値を、「これまでの職業経験の中で」は、「役立っている」の値を示している。「ギャップ」は両項目の差である。

図表 1. 大学教育で身についた能力と現在の仕事での有用性 (①～⑭)



注：各番号は次のとおり対応している。⑮目標を設定し確実に行動する力、⑯現状を分析し目的や課題を明らかにする力、⑰課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力、⑱社会のルール・マナーについて理解する力、⑲社会のルールを守る力、⑳社会の一員として、社会発展のために積極的に関与する力、㉑地域に貢献したいという意識、㉒地域の風土・文化の特徴や強みを理解する力、㉓多様な価値観を尊重し、異なる文化を理解する力、㉔物事に進んで取り組む力、㉕自ら考え、学ぶことの意義を理解し、主体的に学ぶ力。値はそれぞれ「大学教育で」は、「身についた」「どちらかといえば身についた」の合計値を、「これまでの職業経験の中で」は、「役立っている」の値を示している。「ギャップ」は両項目の差である。

図表 2. 大学教育で身についた能力と現在の仕事での有用性 (⑮～⑲)

<図表1、図表2について>

・大学教育で身についた能力

値が高い（8割超）のは、「専門分野に関する基礎的な知識・理解」（89.3%）、「社会のルールを守る力」（85.3%）、「社会のルール・マナーについて理解する力」（83.4）、「幅広い知識や教養」（82.1%）、「物事に進んで取り組む力」（81.8%）、「自ら考え、学ぶことの意義を理解し、主体的に学ぶ力」（80.5%）・・・倫理観、知識・理解、自己教育の態度が大学教育で特に身につけている

値が低い（3割以下）のは、「特定の外国語を用いて、自分の意見をわかりやすく伝える力」（17.4%）、「特定の外国語を用いた相手の意見を聞き取る力」（19.7%）、「特定の外国語を用いて、自分の意見をわかりやすく文章にまとめる力」（21.6%）、「特定の外国語で書かれた文章の内容を的確に読み取る力」（31.4%）・・・外国語運用能力が大学教育で特に身につけていない

・これまでの職業経験の中での有用性

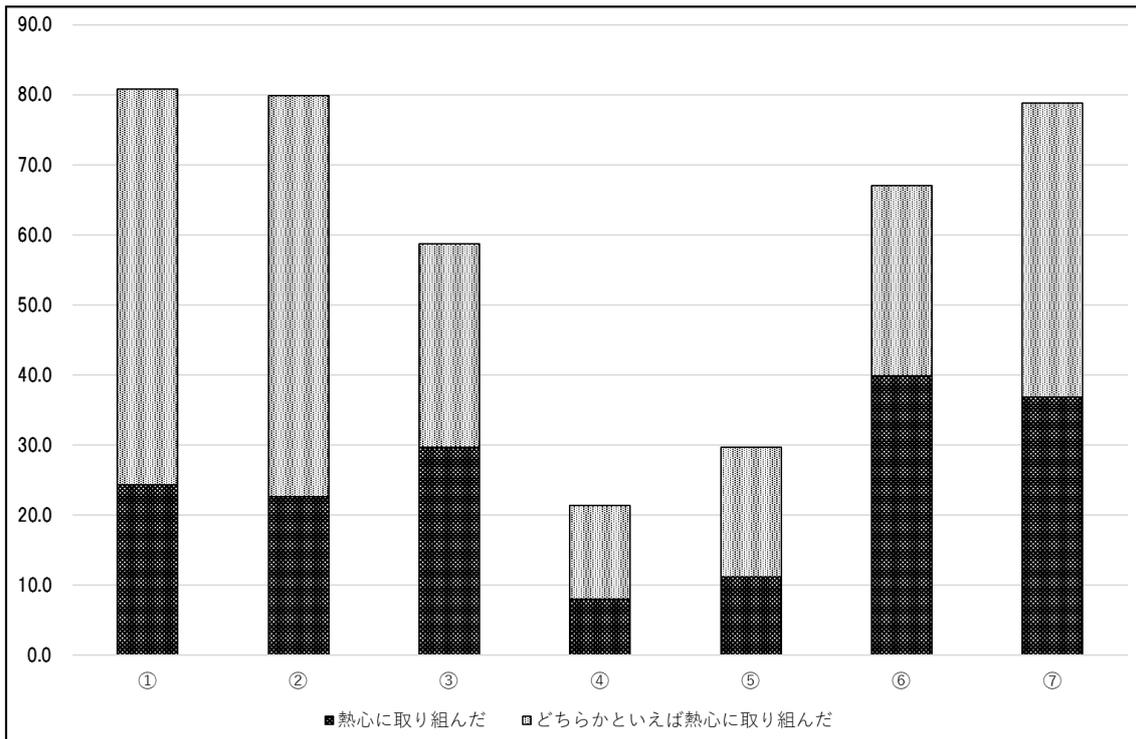
値が高い（85%以上）のは、「相手の意見を丁寧に聴く力」（90.0%）、「社会のルールを守る力」（88.4%）、「物事に進んで取り組む力」（87.4%）、「社会のルール・マナーについて理解する力」（87.1%）、「自ら考え、学ぶことの意義を理解し、主体的に学ぶ力」（86.3%）、「日本語で書かれた文章の内容を的確に読み取る力」（85.9%）、「日本語を用いて、自分の意見をわかりやすく文章にまとめる力」（85.5%）・・・倫理観、論述作文能力・コミュニケーション能力、自己教育の態度が特に役に立った

値が低い（25%以下）のは、「特定の外国語を用いて、自分の意見をわかりやすく伝える力」（16.7%）、「特定の外国語を用いて、自分の意見をわかりやすく文章にまとめる力」（19.4%）、「特定の外国語を用いた相手の意見を聞き取る力」（20.1%）、「特定の外国語で書かれた文章の内容を的確に読み取る力」（24.4%）・・・外国語運用能力が特に役立っていない

・ギャップ

正の値でギャップが大きいのは、「日本語を用いて、自分の意見をわかりやすく伝える力」（13.5）「相手の意見を丁寧に聴く力」（10.5）「日本語で書かれた文章の内容を的確に読み取る力」（9.0）「日本語を用いて、自分の意見をわかりやすく文章にまとめる力」（8.5）・・・論述作文能力・コミュニケーション能力は、役立っていると感じるものの大学教育において身につけていないと考えている。

負の値でギャップが大きいのは、「専門分野に関する基礎的な知識・理解」（-10.8）・・・身につけていると感じるもののこれまでの職業経験の中で役立っていない



注：各番号は次のとおり対応している。①授業、②授業と関係ある学習、③将来を見据えた学習、④学生が行う主体的な活動、⑤インターンシップ、⑥サークル・クラブ活動、⑦アルバイト等の仕事経験

図表 3. 在学中の取組

<図表 3 について>

・該当者割合が高い（約 8 割）項目

授業（80.8%）、授業と関係ある学習（79.9%）、アルバイト等の仕事経験（78.8%）

・・・回答者の 8 割が授業や授業と関係のある学習、アルバイト等の仕事経験に熱心に取り組んでいる。充実した大学生活がうかがえる。

・該当者割合が低い（3 割以下）項目

学生が行う主体的な活動（21.4%）、インターンシップ（29.7%）

・・・第三期中期目標・中期計画に掲載された内容であるが、さらなる活性化が必要

	満足している	ある程度満足している	あまり満足していない	満足していない	合計
該当者割合 (%)	37.9	48.7	11.4	2.0	100.0
実数(人)	113	145	34	6	298

図表 4. 現在の職業の満足度

<図表 4 について>

・「満足している」37.9%、「ある程度満足している」48.7%であり、合計すると満足している者が約 9 割

3. 学部に関する分析

教育学部

1. 学部に関する分析

(1) 分析結果

教育学部卒業生からの回答は、全 64 (学校教育教員養成課程 42、人間発達環境課程 22 ; 以後、教員養成、人間発達と略す) と少数であったが、全般的な傾向を知ることができた。

(1) 専門科目についての満足度 (問 9) : 教員養成・人間発達の両課程において、「満足だった」等の回答率は 90~100% と非常に高く、「不満だった」等は 10% 以下であった。

(2) 専門科目の“役立ち度” (問 9) : 「現在の仕事の中でどの程度、役立っていますか」に関して、教員養成課程の「学校教育基礎研究」と「学校教育実践研究」については、「役立っている」等は約 80%、「役立っていない」等は約 10% 以下であった。一方、教員養成の「学校教育発展研究」と人間発達の専門科目については、「役立っている」等は約 60%、「役立っていない」等は 30~40% であった。

(3) 「教員の教授方法」「教育実習など現場実習の充実」等の事項 (問 13) : 多くの項目で「満足」等が 70~80%、「不満」等は約 20% 以下であった。但し、教員養成の「自学自習のための施設」及び、人間発達の「教育実習など現場実習の充実」「勉学や進路等の相談で教員と接する機会」の「満足」等は 40~60%、「不満」等は 30~40% であった。

(4) 総合的な満足度 (問 14) : 両課程において、第 2 回 (2012 (平成 24) 年) の調査と同様に、「満足」と「ある程度満足」の合計は 80~90% と高い値であった。第 2 回の調査に比べ、両課程で「満足」の割合が増加し、「ある程度満足」が減少した。高い満足度を示す回答者が多くなっていることは注目に値する。特に教員養成における増加は、 χ^2 検定を行い、統計的に有意であることを示した。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

(1) 専門科目と総合的な観点の項目で“満足”等を示した回答が 80~100% と極めて高い : これは、教育学部の教育課程や施設が、学生ニーズに充分応えていることを示している。

(2) 教員養成「学校教育基礎研究」「学校教育実践研究」の“役立ち度”が高い : これら二つの科目群について、「役立っている」等は約 80% であった。この結果は、これらの科目群の実践的な内容が、就職した現場において有効であることを示している。

【改善を要する点】

(1) 学校現場の内容とは必ずしも直結しない授業の位置づけ : 教員養成の「学校教育発展研究」や人間発達の専門科目の内容は、学校現場やその他の就職先で直接役立つとは限らず、上述の調査結果にも表れている。これらの専門科目を、学部としてどのように位置づけるのか、今後の教職課程の再課程認定への対応とともに検討する。

(2) 公立学校での教育実習の充実 : 公立学校の実習を高く評価し、より充実を求める意見が、自由記述に複数記されていた。現状以上の対応は難しいが、より改善を検討したい。

(3) 教職以外を希望する学生への就職指導等の充実 : 自由記述に記されていた。教育学部の性格上、教職以外の進路の学生への対応は必ずしも充分に行えないが、少数でも多様な学生がいることを鑑み、より柔軟に対応する手立てを考えたい。

【参考資料】

以下では、教育学部の専門教育に関するアンケート回答の特徴を示す。回答数は教員養成で42、人間発達で22と比較的少数であったため、一部を除き、詳細な統計的な議論は行っていない。

(1) 専門科目の“満足度”「専門科目についてどの程度満足していましたか」(問9)

専門科目について、教員養成と人間発達の両課程とも、「満足だった」「ある程度満足だった」の合計は90～100%であり、「やや不満だった」「不満だった」の合計は10%以下であった(図1左、図2左)。専門科目の満足度がかなり高かった。

(2) 専門科目“役立ち度”「現在の仕事の中でどの程度、役立っていますか」(問9)

教員養成の「学校教育基礎研究」と「学校教育実践研究」に関して、「役立っている」「ある程度役立っている」の合計は約80%、「あまり役立っていない」「役だっていない」の合計は約20%以下であった(図1右)。一方、教員養成の「学校教育発展研究」と人間発達の専門科目について、「役立っている」「ある程度役立っている」の合計は約60%、「あまり役立っていない」「役だっていない」の合計は30～40%であった(図1右、図2右)。

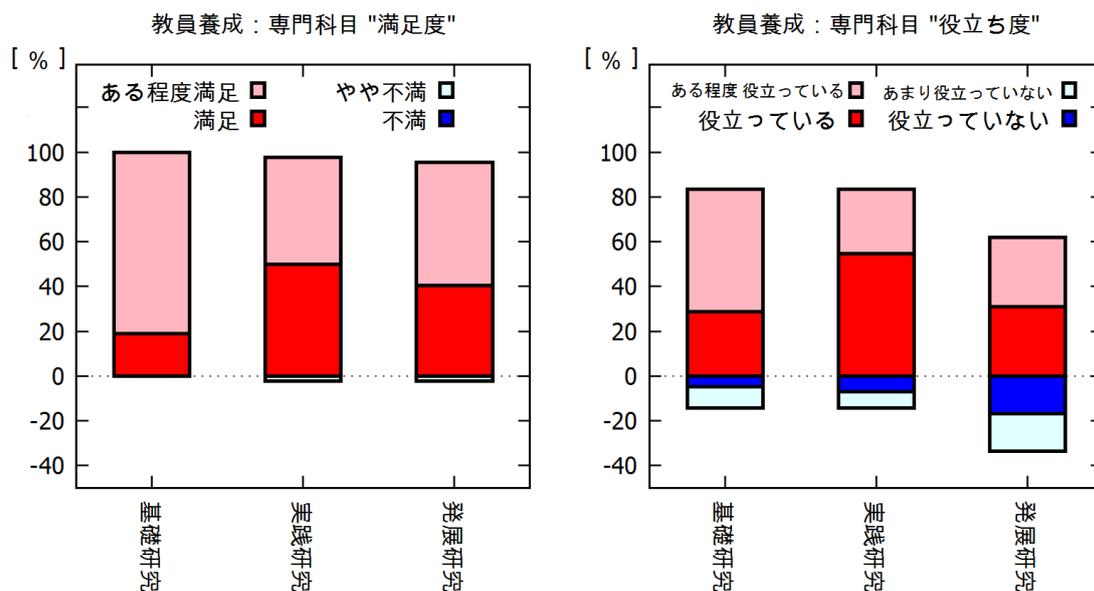


図1. 学校教育教員養成課程の専門科目の“満足度”(左)と“役立ち度”(右)。コラムは、左から、学校教育基礎研究(課程共通)、学校教育実践研究、学校教育発展研究である。「満足だった」「ある程度満足だった」/「役立っている」「ある程度役立っている」の回答の割合を、暖色系の色で、縦軸の正の値(ゼロより上)の領域に示している。「不満だった」「やや不満だった」/「役立っていない」「あまり役立っていない」の回答の割合は、寒色系の色で負の値(ゼロより下)の領域に示している。

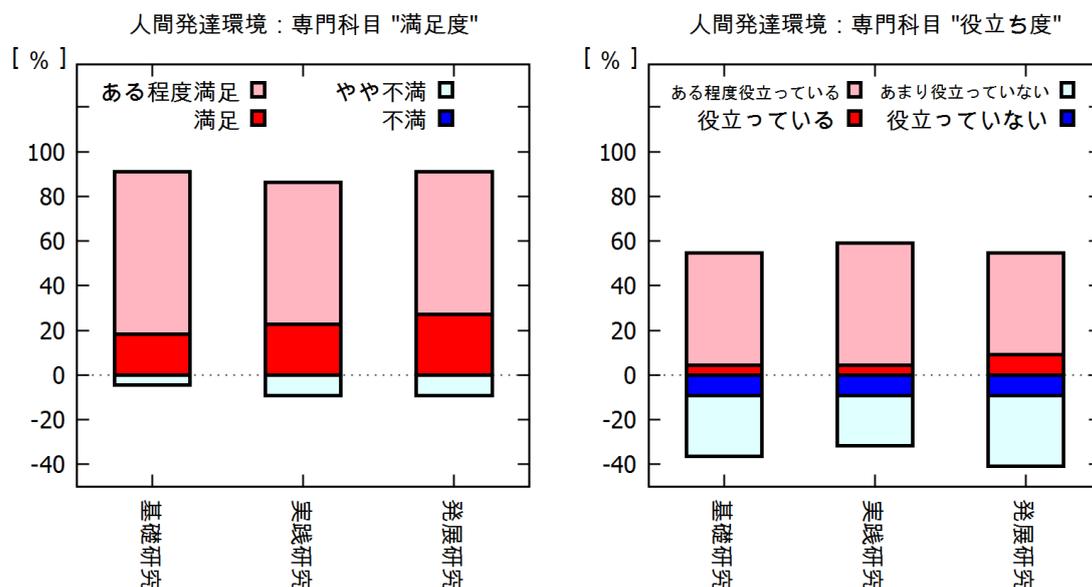


図 2. 人間発達環境課程の専門科目の“満足度”（左）と“役立ち度”（右）。コラムは、左から、基礎研究（発達と環境（課程共通）や基礎科目）、実践研究（各コースの実践研究 I・II）、発展研究（各コースの選択科目・特別演習・卒業研究）である。他は図 1 と同様。

(3) もっと勉強すべきだった専門科目（問 10、問 11）、役立っている専門科目（問 12）

教員養成の卒業生の回答（問 10）で、もっと勉強すべきだった専門科目として“学校教育心理学・児童心理学等”を選択した割合は、69%と高い値を示した。教科研究、教育実地研究（教育実習・教育実践演習等）、卒業研究が選択された割合も高く、それぞれ 45%、45%、35%であった。同様の趣旨で具体的に科目を 3 つまで記す項目（問 11）の回答では、17 回答中 3 回答（以後、3/17 のように記す）が、教育実地研究（教育実習、教育実践演習等を含む）を記していた。また、「現在役立っていると実感している科目」としても、教育実地研究（6/19）が記されていた（問 12）。

人間発達では、もっと勉強すべきだった専門科目として、50%の回答が卒業研究をあげており（問 10）、具体的に科目を記す問い（問 11）でも、卒業研究が記されていた（2/9）。「現在役立っていると実感している科目」としては、コミュニケーション論（5/11）や、卒業研究（2/11）が記されていた（問 12）。

(4) 諸事項についての満足度（問 13）、総合的な満足度（問 14）

教員養成において、総合的な満足度も含めたほとんどの項目について、「満足だった」「ある程度満足だった」の合計は 70~80%の高い値であり、「やや不満だった」「不満だった」の合計は約 10%以下であった（図 3）。但し、自学自習施設についての「満足」等の合計は約 60%、「不満」等の合計は約 30%であった。

人間発達の「教員の教授方法」「少人数によるゼミ形式の授業」「講義室の学習環境」「自学自習のための施設」「総合的な満足度」について、「満足」等は 70~80%と高く、「不満」等は約 20%以下であった（図 4）。「教育実習など現場実習の充実」「勉学や進路等の相談で教員と接する機会」の「満足」等は 50~60%、「不満」等は約 40%であった。

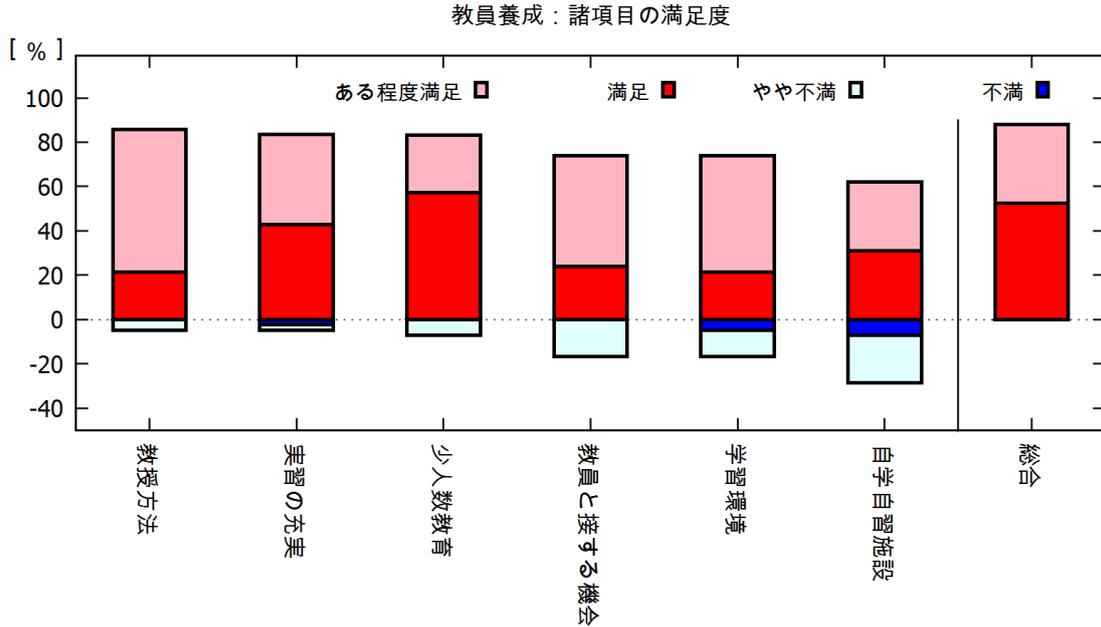


図 3. 学校教育教員養成課程卒業生の諸項目の満足度。コラムは、左から「教員の教授方法」、「教育実習など現場実習の充実」、「少人数によるゼミ形式の授業」、「勉強や進路等の相談で教員と接する機会」、「講義室の学習環境」、「自学自習のための施設」「総合的に見て、教育学部で学んだことについて」である。表示方法は図 1 と同様。

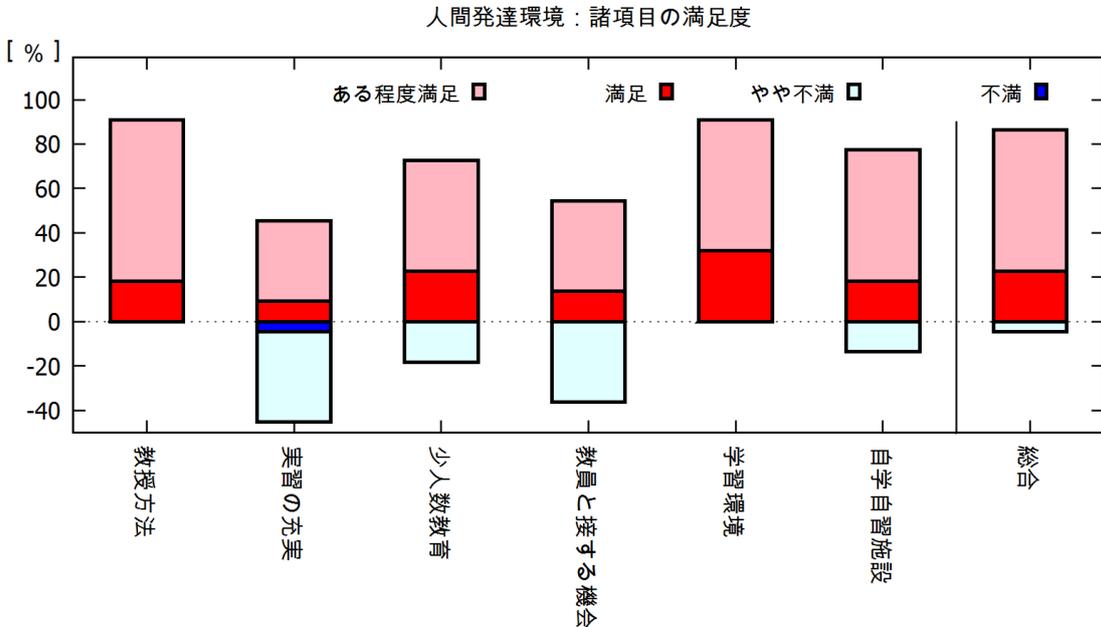


図 4. 人間発達環境課程卒業生の諸項目の満足度。他は図 3 と同様。

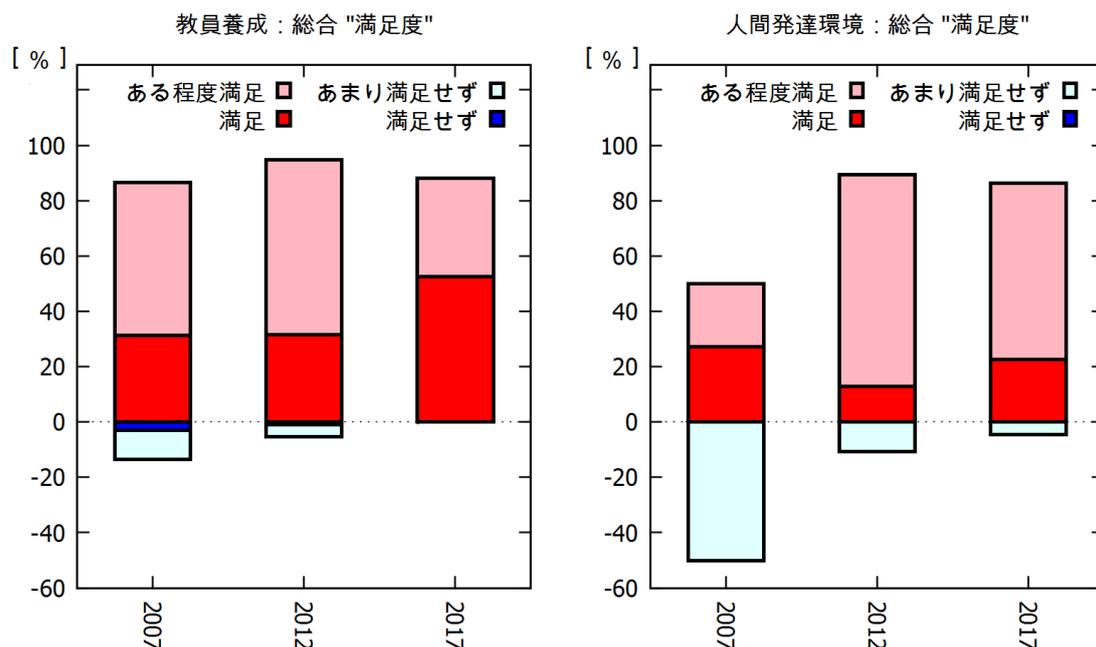


図 5. “総合的な満足度” の調査ごとの変化。表示方法は、図 1 と同様。

(5) 「総合的な満足度」(問 14) の前回および前々回との比較

「総合的にみて、教育学部で学んだことについて満足していますか」(問 14) と同じ問いが 2007 (平成 19) 年と 2012 (平成 24) 年の調査にもあるので、結果を比べた (図 5)。「満足」「ある程度満足」の合計が、2007 年の人間発達を除くと、80%を超えており、全体的に満足度は高いことが示されている。なお人間発達について満足度が、2007 年から 2012 年にかけて上昇していることは、既に前回 (第 2 回) の報告書に記されている。

両課程とも 2017 年の「満足」の割合は、2012 年に比べて高い。実際、教員養成の 2012 年と 2017 年の「満足」「やや満足」の結果について、 χ^2 検定を行うと、0.5%の有意水準で結果が同一とする仮説は棄却される ($p=0.0049$)。つまり教員養成で「満足」の割合が増えた結果は、統計的に有意である。人間発達についても同様に検定を行ったが、有意性を示すことはできなかった。

(6) 自由記述欄 (問 15)

以下のような記述が見受けられた：

- ・ 早い段階で先輩等の話を聞き、授業 (1 年の教育原論など) の意義を認識したかった。
- ・ 入学時ではなく、2 年生でコース領域を決める制度は良かった。
- ・ 能動的な学習を含む授業が増えてほしい。
- ・ 個々の子どもたちの実態を把握する授業がほしい。
- ・ 教員以外への就職を目指す学生への配慮もほしい。
- ・ 留学を希望したが、実習のため行きにくかった。
- ・ 公立学校での教育実習の充実をはかってほしい。
- ・ 公立学校へのインターンシップは良かった。

法学部

1. 学部に関する分析

(1) 分析結果

①問9-4「少人数によるゼミ形式の授業」の項目は、法学部の最重点ポイントであり、十分に卒業生にも評価されている。

①問9-6「勉学や進路等の相談で法学部教員と接する機会」の項目は、従来法学部が折に触れて「強み」として協調してきたことであるが、予想よりも卒業生の評価は低い。【参考資料1】

②問10-6「歴史的視点」および問10-8「国際的視点」、さらには問11-6「歴史的視点」問11-8「歴史的視点」については評価が相対的に低い。これは、問12-10「政治系科目」問12-11「国際系科目」の役立ち方の項目を見ると、法学部の卒業生の多くが、地方公務員や地方企業などへ就職し、そのような視点を役立てる機会に恵まれないのではないかとも思われるが、他方で、近年続く教員不補充の中で、「国際関係論」「法制史」「比較法」「外国法」などの諸科目を担当する教員がおらず演習も開講できていないことがその主因とも考えられる。【参考資料2】

③問13および14では、法学部で学ぶべき科目として、やはり民法系科目が挙げられている。これは、法的発想の基礎になる科目であるという点で自然なことでもあり、最も実務的な科目であることから当然に納得できる結果である。【参考資料3】

とはいえ、最大6名いた民法担当者は、現在2名だけとなっており、この強みも、ともすれば近い将来に失われる危機を迎えている。

④問15の総合的な、法学部で学んだことについての満足度を聞く問いでは、一人として否定的な選択肢を選んだ者はなく、法学部教育がおおむね良好な質を保っていることを指し示している。【参考資料4】

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

少人数教育に対する満足度が高い。これは、法学部の最重点ポイントといってよい。

実務的な科目、たとえば民法、商法系科目、租税法、行政法などの科目への満足度が高い。今後もこれらの分野の充実を維持しなければならない。

総合的満足度が高いことは、法学部教育がおおむね間違った方向性にはっていないことを示すものである。

【改善を要する点】

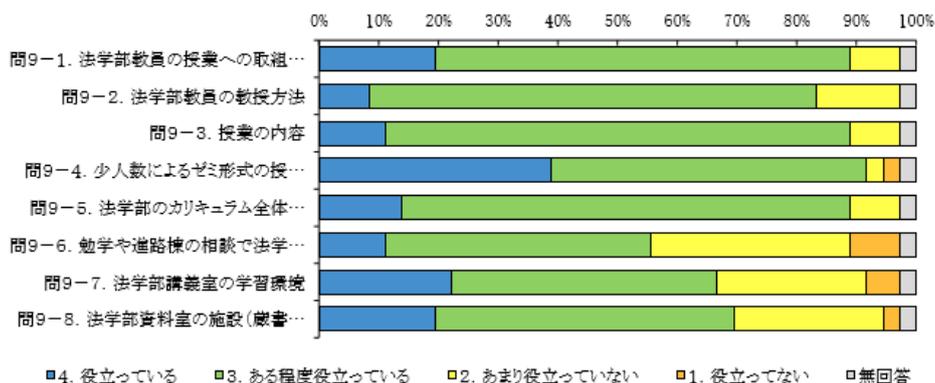
「勉学や進路等の相談で法学部教員と接する機会」の項目が相対的に評価が低かったことは、法学部の今後の教育方針に大きな投げかけがあったと受け止めるべきことであり、今後、部内教務委員会を中心に対策をはかっていく。

主に地方公務員、地方企業で働く卒業生が多いことを反映してのことであろうが、国際的視野、歴史的視野の項目が低い。この点は、今後の人事の進展に依存するので、強く人事的手当てを要求したい。

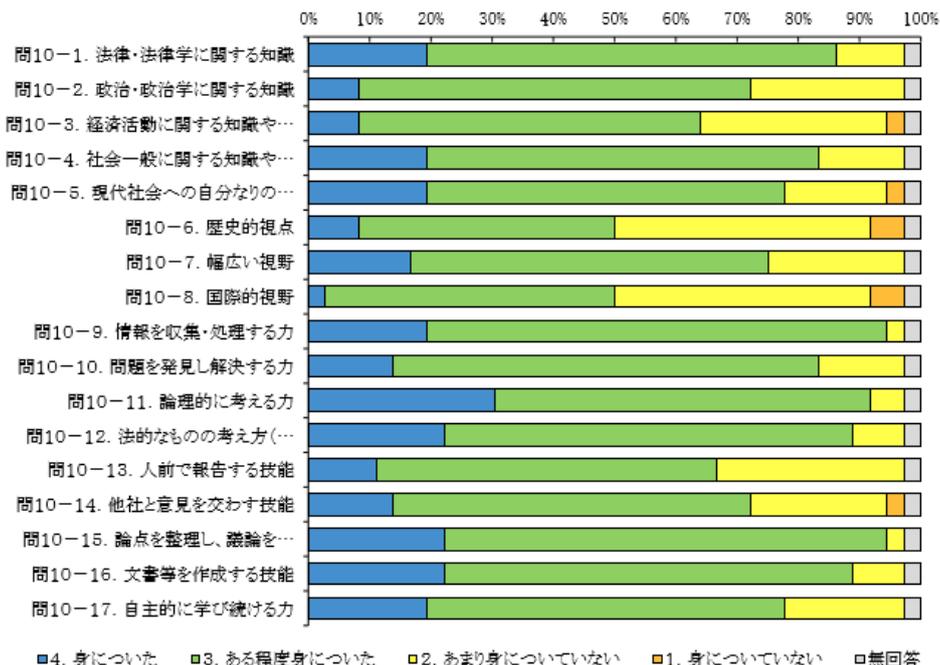
【参考資料 1】

問9. 法学部に在学中、以下の事柄について、どの程度満足していましたか。

	4. 役立っている		3. ある程度役立っている		2. あまり役立っていない		1. 役立っていない		無回答		総計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
問9-1. 法学部教員の授業への取組み(熱意など)	7	19.4%	25	69.4%	3	8.3%	0	0.0%	1	2.8%	36	100.0%
問9-2. 法学部教員の教授方法	3	8.3%	27	75.0%	5	13.9%	0	0.0%	1	2.8%	36	100.0%
問9-3. 授業の内容	4	11.1%	28	77.8%	3	8.3%	0	0.0%	1	2.8%	36	100.0%
問9-4. 少人数によるゼミ形式の授業(演習など)	14	38.9%	19	52.8%	1	2.8%	1	2.8%	1	2.8%	36	100.0%
問9-5. 法学部のカリキュラム全体について	5	13.9%	27	75.0%	3	8.3%	0	0.0%	1	2.8%	36	100.0%
問9-6. 勉学や進路棟の相談で法学部教員と接する機会	4	11.1%	16	44.4%	12	33.3%	3	8.3%	1	2.8%	36	100.0%
問9-7. 法学部講義室の学習環境	8	22.2%	16	44.4%	9	25.0%	2	5.6%	1	2.8%	36	100.0%
問9-8. 法学部資料室の施設(蔵書、情報機器等)	7	19.4%	18	50.0%	9	25.0%	1	2.8%	1	2.8%	36	100.0%



【参考資料 2】



【参考資料3】

問13. 受講して有益だったと考える法学部開講科目を最大3つまで挙げてください。

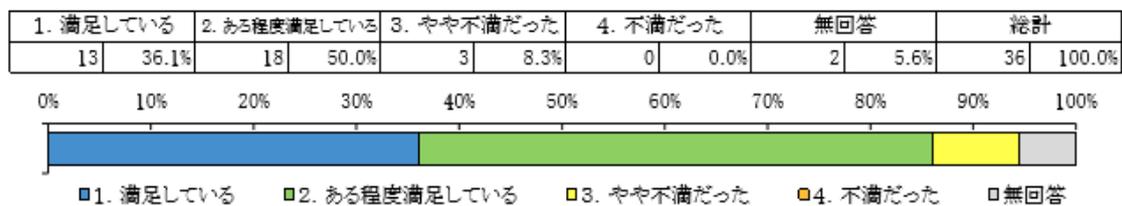
No.	左	中	右
40001	刑事訴訟法	民法	
40002	公共選択論	民法	
40004	平和論？研先生	公共選択論金子先生	民法辻上先生
40005	民法	行政法	労働法
40006	民法	憲法	政治学
40008	民法	憲法	商法
40009	手形・小切手法	民法全般	
40011	民法Ⅰ～Ⅳ	会社法	土地家屋調査士の講義
40012	憲法	行政法	
40013	民法		
40014	政治行動論	行政法	行政学（ガバナンス論）
40016	税法	会社法	
40017	刑法学全般	消費者生活と法	社会保障法
40018	憲法	刑事訴訟法	行政法
40019	刑法		
40021	民法	会社法	税法
40022	民法	行政	
40023	民法	会社法	
40024	民法	行政法	憲法
40025	民法全般		
40027	行政法	刑法総論	行政救済法
40029	民法	税法	憲法
40030	行政救済法	民法	刑法各論
40031	行政法	憲法	民法
40032	国際関係論		
40033	公共選択論	民法	租税法
40035	民法	税法	

問14. 在学中にもっと学んでおくべきであったと考える授業科目ないし学問分野を最大3つまで挙げてください（法学部の開講科目や法学・政治学等の学問分野に限定する必要は必ずしもありません）。

No.	左	中	右
40002	経済学	労働法	
40004	民法	商法	行政法
40005	労働法	行政法	不動産系の法律
40006	行政法	刑法	社会保障法
40008	法人税法		
40009	憲法Ⅰ・Ⅱ	民事訴訟法	社会保障系科目
40011	税法		
40012	民法	社会の動きを理解する力を身につけるようなもの	
40013	国際法	税法	
40014	統計学		
40015	商法		
40016	会計学		
40017	年末調整について（税法）	民法	憲法
40018	民法	行政法	税法
40019	民法一、二		
40020	民法	会社法	税法
40021	英語		
40022	税法		
40024	民法	英語	行政法
40027	民法	国際政治学	会社法
40029	民法	社会保障法	労働法
40030	会社法	商法	労働法
40031	行政法	憲法	民法
40033	マーケティング論	経済学（マクロ、ミクロ）	外国籍
40035	外国籍	社会保障法	

【参考資料4】

問15. 総合的にみて、法学部で学んだことについての満足度はどうですか。



経済学部

1. 学部に関する分析

(1) 分析結果

① 学科 (問 1)

- ・ 経済学科 16 人、経営システム学科 19 人、地域社会システム学科 16 人、計 51 人の卒業生から回答を得た。

② 知識 (問 9-1 から問 9-10 まで)

- ・ 大学教育で「身についた」又は「どちらかと言えば身についた」と回答した割合は、「経済についての知識」が 70.5%と最も高く、「統計についての知識」が 33.3%と最も低い。
- ・ 仕事で「役立っている」と回答した割合は、「経済についての知識」が 56.9%と最も高く、「人類の文化および社会についての幅広い知識」が 19.6%と最も低い。

③ データ分析能力 (問 9-11 と問 9-12)

- ・ 大学教育で「身についた」又は「どちらかと言えば身についた」と回答した割合は、定量的なデータ分析能力が 39.3%、定性的なデータ分析能力が 37.3%といずれも低い。
- ・ 仕事で「役立っている」と回答した割合は、定量的なデータ分析能力が 33.3%、定性的なデータ分析能力が 35.3%といずれも低い。

④ 複眼的思考力等 (問 9-13 から問 9-16 まで)

- ・ 大学教育で「身についた」又は「どちらかと言えば身についた」と回答した割合は、「複眼的な思考力」が 58.9%、「チャレンジ精神や行動力」が 72.6%、「コミュニケーション力」が 84.4%、「課題探求・解決力」が 84.3%であり、「複眼的な思考力」の数値が相対的に低い。
- ・ 仕事で「役立っている」と回答した割合は、「複眼的な思考力」が 51.0%、「チャレンジ精神や行動力」が 62.7%、「コミュニケーション力」が 84.3%、「課題探求・解決力」が 74.5%であり、「複眼的な思考力」の数値が相対的に低い。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

コミュニケーション力、課題探求・解決力、チャレンジ精神や行動力を大学教育で十分に身につけ、それらを仕事で役立てている。また、経済についての知識も大学教育で十分に身に付けている。

【改善を要する点】

大学教育で身につけた知識に偏りがある。また、データ分析能力が身につけていない。今後は、履修する授業科目の偏りを小さくし、統計・調査に関する授業科目を総ての学生に履修させる必要がある。

【参考資料】

	身に付いた	どちらかと言え ば身について	合計	役立っている
問9-1.	17.6%	52.9%	70.5%	56.9%
問9-2.	3.9%	29.4%	33.3%	23.5%
問9-3.	9.8%	37.3%	47.1%	41.2%
問9-4.	9.8%	29.4%	39.2%	33.3%
問9-5.	15.7%	37.3%	53.0%	37.3%
問9-6.	13.7%	37.3%	51.0%	31.4%
問9-7.	19.6%	33.3%	52.9%	27.5%
問9-8.	23.5%	37.3%	60.8%	29.4%
問9-9.	7.8%	27.5%	35.3%	23.5%
問9-10.	5.9%	33.3%	39.2%	19.6%
問9-11.	2.0%	37.3%	39.3%	33.3%
問9-12.	0.0%	37.3%	37.3%	35.3%
問9-13.	21.6%	37.3%	58.9%	51.0%
問9-14.	25.5%	47.1%	72.6%	62.7%
問9-15.	27.5%	56.9%	84.4%	84.3%
問9-16.	17.6%	66.7%	84.3%	74.5%

問9-1. 経済についての知識
問9-2. 統計についての知識
問9-3. 金融についての知識
問9-4. 会計についての知識
問9-5. 経営についての知識
問9-6. 商学・マーケティングについての知識
問9-7. 観光についての知識
問9-8. 地域の活性化についての知識
問9-9. 世界各地域の経済についての知識
問9-10. 人類の文化および社会についての幅広い知識
問9-11. 定量的なデータを適切な手法を用いて分析する能力
問9-12. 定性的なデータを適切な手法を用いて分析する能力
問9-13. 複眼的な思考力
問9-14. チャレンジ精神や行動力
問9-15. コミュニケーション力
問9-16. 課題探究・解決力

医学部医学科

1. 学部に関する分析

(1) 分析結果

県内在住者の割合は47%（入学時）から30%（現住所）に減少している。卒業後は香川県内のみならず西日本を中心に広く活躍している（問9）。アンケートの対象者が卒後3、4年目ということもあり、86%は勤務医または研修医（前期・後期）であり（問10）、95%は大学病院等の教育機関または病院に勤務している（問12）。

在学当時の医学部の教育についての満足度について（問13）、シラバスの充実については60-81%、講義・実習の内容については54-70%が、学習法の説明については58-70%が、カリキュラムについては61-72%が、評価方法については56-74%が、それぞれ「満足」または「ある程度満足」と回答しており、全体として満足度は高い。ただし、科目系による差がみられ、外国語科目は満足度がやや低い傾向にある。

医学部での学習・生活支援について、授業以外で教員と接する機会については、86%が「満足」または「ある程度満足」と回答している。また、指導教員制度や情報処理施設・機器、学生の交流スペース等についても75%以上が「満足」または「ある程度満足」と回答している。逆に、自習室については「満足」または「ある程度満足」と回答している割合が65%と、やや低い（問13）。

在学中に身についた（「身についた」、「ある程度身についた」）能力としてあげられるものは、医学の基礎知識（86%）、モラルや礼儀、社会的責任（79%）、自己研鑽能力（79%）、身についた割合が低いものは、実践の批判的分析と創造的に発展させる能力（61%）、科学的分析力と探求能力（63%）、協働・連携する能力（63%）があげられる。いずれの事項も6割以上が身についたと自己評価している。今回のアンケートで尋ねた事項についてはいずれも84-86%が現在の仕事の中では「必要」または「ある程度必要」と考えており、大学の設定する「身につけるべき事項」と卒業生の感覚のズレは少ない（問14）。

また、90%が、医師の国家資格取得のために必要な教育が「行われていた」または「ある程度行われていた」と考えており（問15）、本学の医学部で学んだことについては88%が「満足」または「ある程度満足」と考えており、その満足度は高い（問17）。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

医学部で学んだことに対する満足度は全体として高い。医学科の学生は、国家試験を受験し、卒業後に医師の資格を取得するが、そのために必要とする教育についての満足度も高く、結果として大学生活が充実していたものと考えられる。

【改善を要する点】

医学部での教育の外国語科目については、半数以上が「満足」「ある程度満足」しているが、他の科目系に比べてやや低い。学習・生活支援では自習室に対する満足度が低く、自習スペースの拡大などの改善が求められる。「身につけるべき事項」についても、さらに「身についた」と感じる割合を増やす工夫が求められる。

医学部看護学科

1. 学部に関する分析

(1) 分析結果

県内在住者の割合は入学時(60.7%)から現住所(46.4%)に減少しているが、約半数が県内で活躍している(問9)。現在の職種は看護師(50.0%)、保健師(35.7%)、養護教諭(3.6%)であり、89.3%が本学での取得資格で就業している(問10)。勤務場所は大学附属病院または病院(42.8%)、地方公共団体(28.6%)であり(問11)、正規雇用(85.7%)が最も多い(問12)。

在学当時の学習や活動の満足度について(問13)、大学教育では専門基礎科目、専門科目、臨地実習ともに、「満足」または「ある程度満足」であり、全体として満足度は高い。学習・生活支援について「満足」または「ある程度満足」の回答は、図書館の施設や蔵書が96.5%で最も多く、次いで授業以外で教員と接する機会89.2%、情報処理関係施設や機器、学生の交流スペース、指導教員制度85.7%である。一方、クラブ・サークル関係施設・設備の「やや不満」「不満」が17.9%であった。

在学中に身についた(「身についた」、「ある程度身についた」)能力としてあげられるものは、看護学の基礎知識、医療人に求められるモラルや礼儀(92.9%)、看護学の基本的技術(92.8%)、人間の尊厳・人権を尊重する態度の形成(89.3%)、専門職業人として生涯自己研鑽する能力(89.2%)である。身についた割合が低いものは医療職間で協働・連携する能力(64.3%)である。全ての項目において6割以上の学生が身についたと自己評価している。一方、現在の仕事の中では全ての項目について、71.4-85.7%が「必要」または「ある程度必要」と考えており、大学の設定する「身につけるべき事項」と卒業生の評価はほぼ一致している(問14)。

国家資格取得に必要な教育では、全員が「行われていた」または「ある程度行われていた」と考えている(問15)。本学医学部で学んだことについては96.5%が「満足」または「ある程度満足」と考えており、その総合的な満足度は非常に高い(問17)。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

医学部看護学科で学んだことに対する満足度は全体として高い。特に医療人に求められるモラルや礼儀、人間の尊厳・人権を尊重する態度の形成、専門職業人として生涯自己研鑽する能力等、知識・技術教育のみでは学べない専門職業人としての態度醸成が確実に身につけていることは高く評価できると考える。

【改善を要する点】

看護学の基本的技術は、在学中に92.8%が「身についた」「ある程度身についた」と評価しているにも関わらず、実際の仕事においては21.4%が「あまり必要ない」と考えていることから、臨床現場に即した内容とそれを獲得する演習方法を工夫する必要がある。また、医療職間の協働・連携する能力が、「身につけていない」「あまり身につけていない」が32.1%であり、臨地実習をとおして様々な職種間連携を学ぶ機会を増やす工夫が求められる。

工学部

1. 学部に関する分析

(1) 分析結果

【参考資料】にある図表1のとおり、工学部専門教育で身についた能力と現在の仕事での有用性との相関はきわめて高い。

これらの中で、相関する項目が互いにいずれも60%以上のもの、すなわち工学部の専門教育で身についたと判断され、これまでの職業経験の中でも役立っている能力・知識は以下のとおりである。

- ① 言語運用能力
 - 1) 論理的かつ客観的な文書を作成することができる力(問9-1)
 - 2) 多様な情報を適切に利用し、効果的なプレゼンテーションを行うことができる力(問9-2)
- ② 知識・理解
 - 1) 工学的課題を解決するために必要な工学的基礎知識(問9-7)
 - 2) 人間、社会、環境についての多角的な視点(問9-8)
- ③ 知識・理解
 - 1) 自主的、継続的に学習し、新たな課題を探求することができる力(問9-10)
 - 2) 専門分野において課題を認識し、その解決に向けて企画、立案し、遂行することができる力(問9-11)
 - 3) 多様な制約の下で、専門知識、技術を用いて、必要に応じ他者と協力して問題を解決することができる力(問9-12)

一方、相関する項目が互いにいずれも50%未満のもの、すなわち工学部の専門教育で身につけなかったと判断され、これまでの職業経験の中でも役立っていない能力・知識は以下のとおりである。

- ① 言語運用能力
 - 1) 英語による情報収集能力、コミュニケーション能力(問9-4)
 - 2) 国際的視野を持ち、世界標準の科学技術に関する情報を収集できる力(問9-5)
- ② 地域理解
 - 1) 地域の現状と課題に関心を持ち、自己と関連づけて問題を発見し、探究することができる力(問9-14)

(2) 優れた点及び改善を要する点

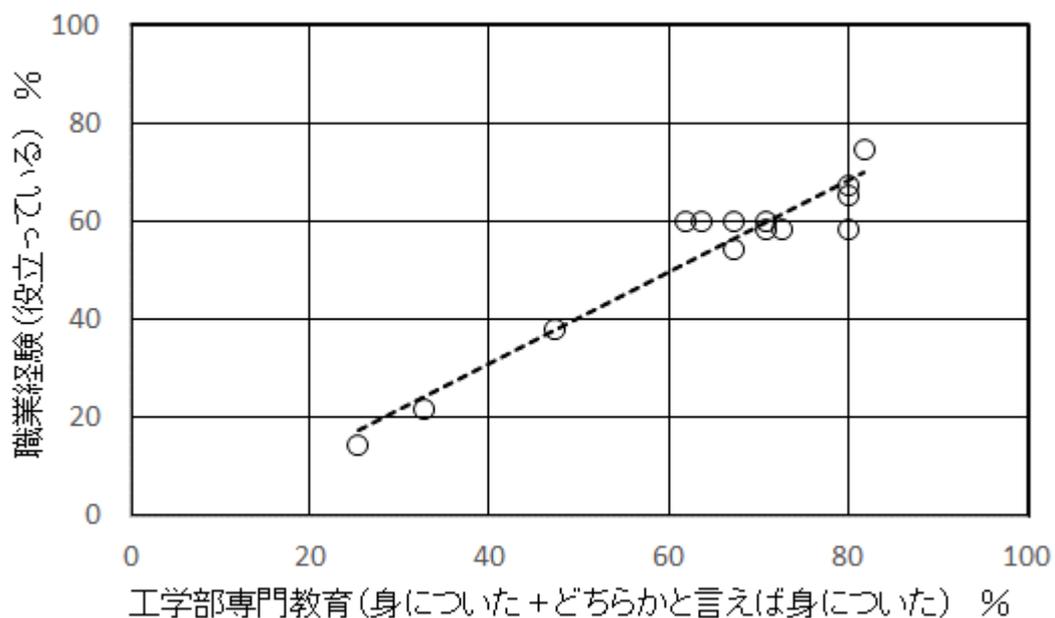
【優れた点】

工学部の専門性に関わる文書作成やプレゼンテーション能力、工学的基礎知識、多角的な視点、課題探求力、企画・立案・遂行力、他者と協力した問題解決力が特に身についている。

【改善を要する点】

全学共通および工学部での教育を通しての外国語運用能力の育成が課題であり、地域理解を促す教育についても、COC+のプログラムを活用する等で進める必要がある。

【参考資料】



図表 1. 工学部専門教育で身についた能力と現在の仕事での有用性との相関

農学部

1. 学部に関する分析

(1) 分析結果

共通項目の間8において農学部の結果を全学と比較したところ、設問9（情報通信技術を用いて情報を収集・分析し、モラルに則って効果的に活用する力）と10（様々な現象を、数量的なデータを用いて分析し、説明・表現する力）において、全学より10～20ポイント高かった。これは、3年後期から課題研究に取り組んだ成果が現れていると考えられる。一方、知識や理解に関する設問12～13では全学より10～15ポイント低かった。しかし、現在の職業に対する満足度（満足している＋ある程度満足している、の合計）は、全学とほぼ同じであった。これは、課題研究中に修得した技能が現在の職業に役立っているためと推測された。地域貢献に関する貢献度が低かったが、今後、地域資源学シリーズのこうかが期待される。

農学部単独で見ると、在学中では専門教育の全てに於いて満足度が高かった。また、これまでの職業生活及び社会生活全般に対しては、課題研究活動が良好な影響を及ぼしていると考えられた。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

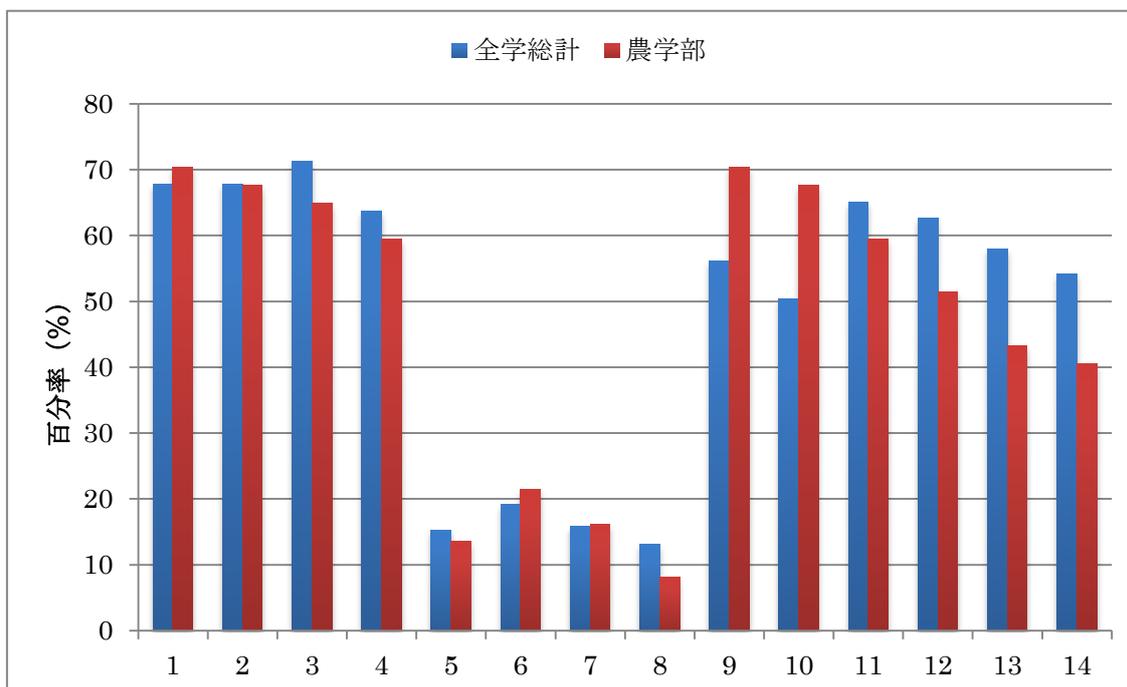
農学部の卒業生は、情報通信技術を用いて情報を収集・分析し、モラルに則って効果的に活用する力と様々な現象を数量的なデータを用いて分析し、説明・表現する力が卒業後に役立っていると、全学と比べて10～20ポイント高い割合で回答している。

在学中の専門教育に対する満足度は、80%程度かそれ以上であり、たいへん高い。これまでの職業生活及び社会生活全般に対しては、全体として、課題研究活動が良好な影響を及ぼしている。

【改善を要する点】

農学部における学習相談窓口の満足度が低く、学習相談窓口のあり方、運営方針などについて改善する必要がある。

【参考資料】

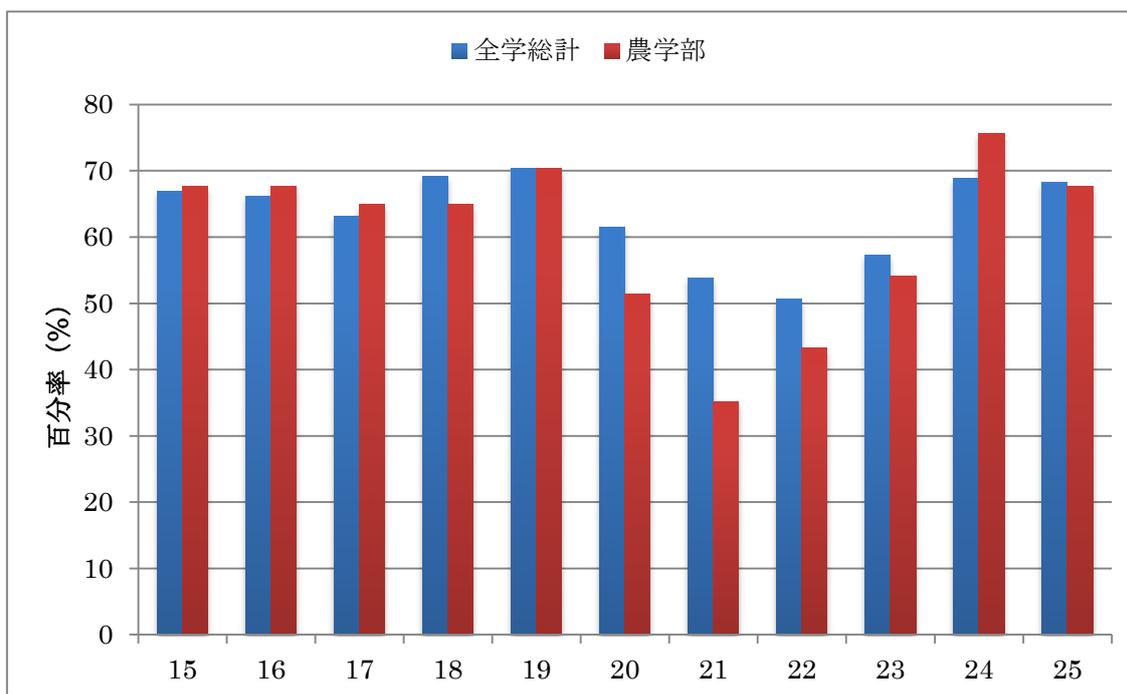


各番号の対応は以下のとおりである。

1：日本語を用いて自分の意見を分かりやすくまとめる力、2：日本語で書かれた文章の内容を的確に読み取る力、3：相手の意見を丁寧に聴く力、4：日本語を用いて自分の意見を分かりやすく伝える力、5：特定の、外国語を用いて、自分の意見を分かりやすく文章にまとめる力、6：特定の外国語で書かれた文章の内容を的確に読み取る力、7：特定の外国語を用いて相手の意見を聞き取る力、8：特定の外国語を用いて、自分の意見を分かりやすく伝える力、9：情報通信技術を用いて情報を収集・分析し、モラルに則って効果的に活用する力、10：様々な現象を、数量的なデータを用いて分析し、説明・表現する力、11：幅広い知識や教養、12：専門分野に関する基礎的な知識、理解、13：専門分野に関する知識、理解を応用する力、14：職業に関係する知識や技能。

図1 設問1～14でこれまでの職業経験に於いて「大学教育が役に立っている」と答えた割合 (%) の全学と農学部の比較

設問1～8については全学と同じ傾向である。設問9と10は全学より10～20ポイント高い。3年後期から課題研究に取り組んだ成果が現れていると考えられる。設問12～13は全学より10～15ポイント低い。専門的な知識がこれまでの職業に役立っていないと感じている卒業生の割合が相対的に高いことになる。一方、図には示していないが、現在の職業に対する満足度（満足している+ある程度満足している、の合計）は、全学で82.2%、農学部で81.1%であり、満足度はほぼ同じであることから、専門的な知識が役立っていないと感じても、職業的には支障が無いようである。これは、設問9、10の在学中、特に課題研究中に修得した技能が現在の職業に役立っているためと推測される。



各番号の対応は以下のとおりである。

15:目標を設定し、確実に行動する力、16:現状を分析し、目的や仮題を明らかにする力、17:課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力、18:社会のルール・マナーについて理解する力、19:社会のルールを守る力、20:社会の一員として、社会発展のために積極的に関与する力、21:地域に貢献したいという意識、22:地域の風土・文化の特徴や強みを理解する力、23:多様な価値観を尊重し、異なる文化を理解する力、24:物事に進んで取り組む力、25:自ら考え、学ぶことの意義を理解し、主体的に学ぶ力。

図2 設問15～25でこれまでの職業経験に於いて「大学教育が役に立っている」と答えた割合(%)の全学と農学部の比較

全体としては全学と同じ傾向であるが、設問20～22、特に、21が低い。これは農学部だけでなく工学部でも同じ傾向である。地域貢献、地域との関わりを強める施策が必要であると考えられる。農学部では4年前から地域資源学シリーズとして、オリーブ学、希少糖学及びうどん学を順次開講したこれらの授業の効果が今後現れることが期待される。

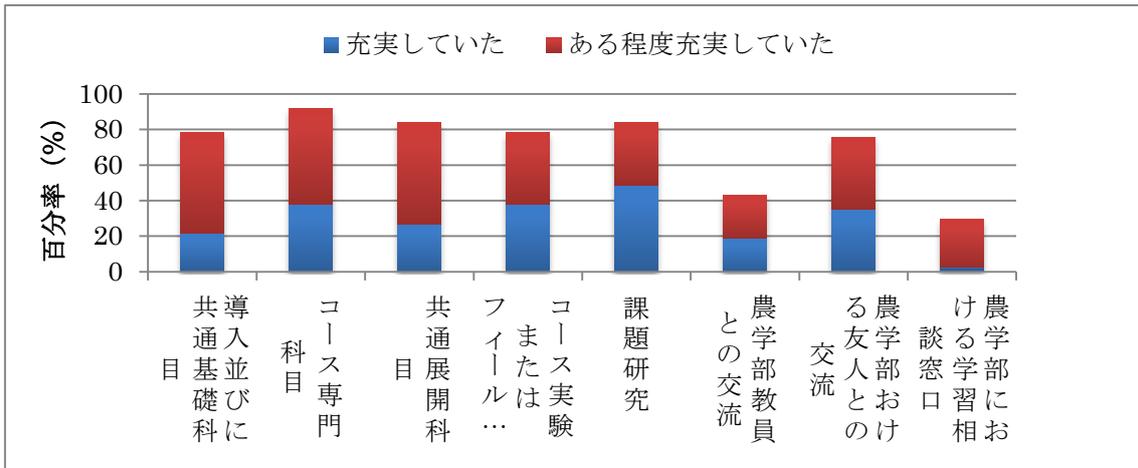


図3 在学中における専門教育と学習・生活支援の満足度

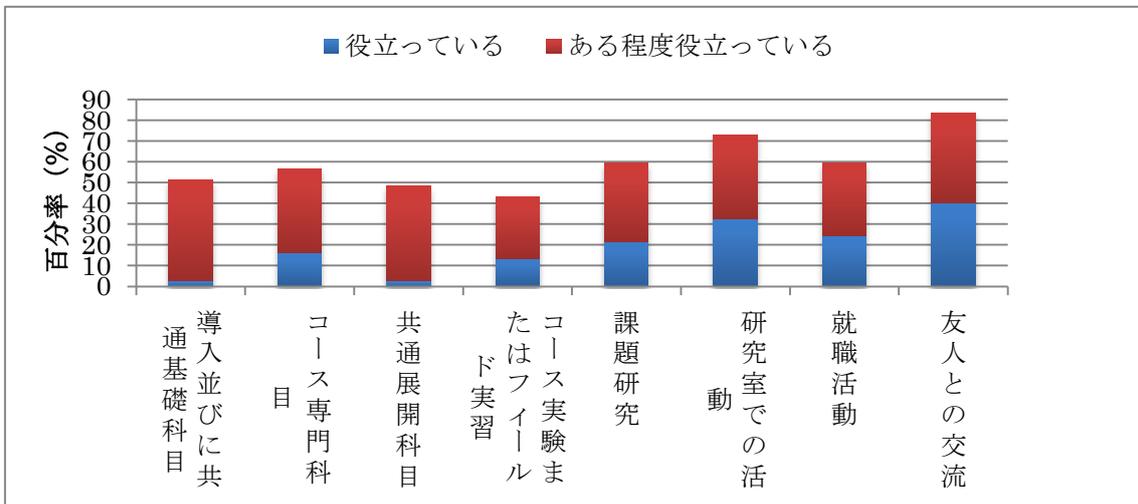


図4 これまでの職業生活に対する専門教育と学生生活の役立ち度

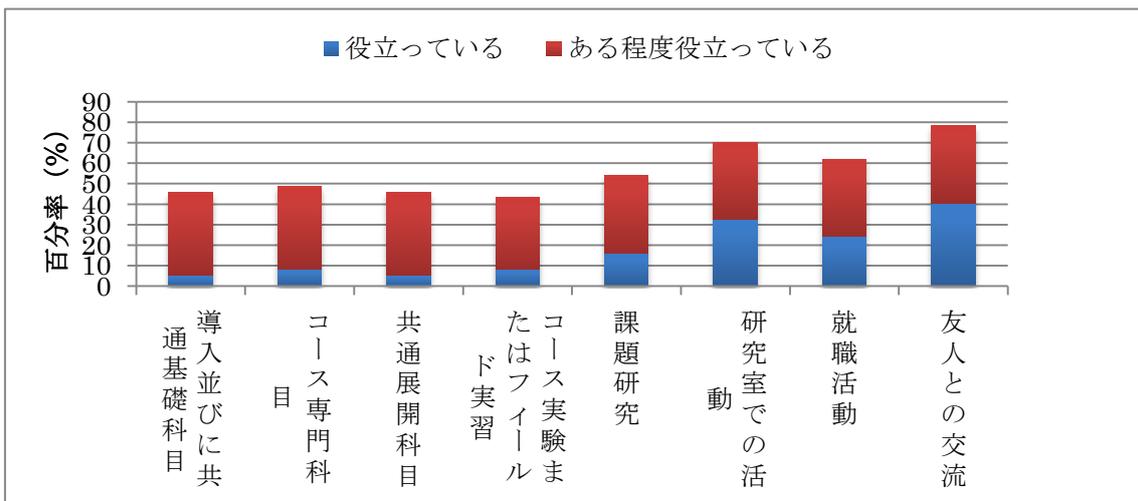


図5 社会生活全般に対する専門教育と学生生活の役立ち度

農学部の専門教育及び学習・生活支援の在学中における満足度を図3に示した。なお、図3、4及び5に於いて、インターンシップは回答数が少なかったため、省いた。

在学中では専門教育の全てに於いて満足度が高かった。一方、農学部における学習相談窓口の満足度はたいへん低かった。

これまでの職業生活及び社会生活全般に対する専門教育と学生生活の役立ち度を、それぞれ、図 4 及び図 5 に示した。どちらもほぼ同じ傾向を示し、専門教育と学生生活では、学生生活の方が役立ち度が高かった。専門教育の中では、課題研究の役立ち度が高かった。学生生活では友人との交流が最も高く、卒業後も継続していることがうかがわれた。ついで、研究室での活動が高かった。研究室での活動は課題研究と深く関わっており、課題研究活動が卒業後も重要であると考えられた。

＜企業等アンケート調査＞

1. 全学的な視点からの分析

(1) 分析結果

①企業等からの評価と大学教育で身についた能力・・・図表5、6参照

企業等からの評価

総じて高い評価（85%超）

外国語運用能力の評価が低い（5割台）

ギャップが大きい

外国語運用能力と地域理解→卒業生の自己評価に対して、企業等の評価が高い能力。就職先で求められる程度は身につけているということか。地域理解については、主題 C 基礎科目の必修等、カリキュラムの充実によってギャップの縮小が期待される。

②卒業生に対する満足度・・・図表7参照

95%以上が満足している。

(2) 優れた点及び改善を要する点

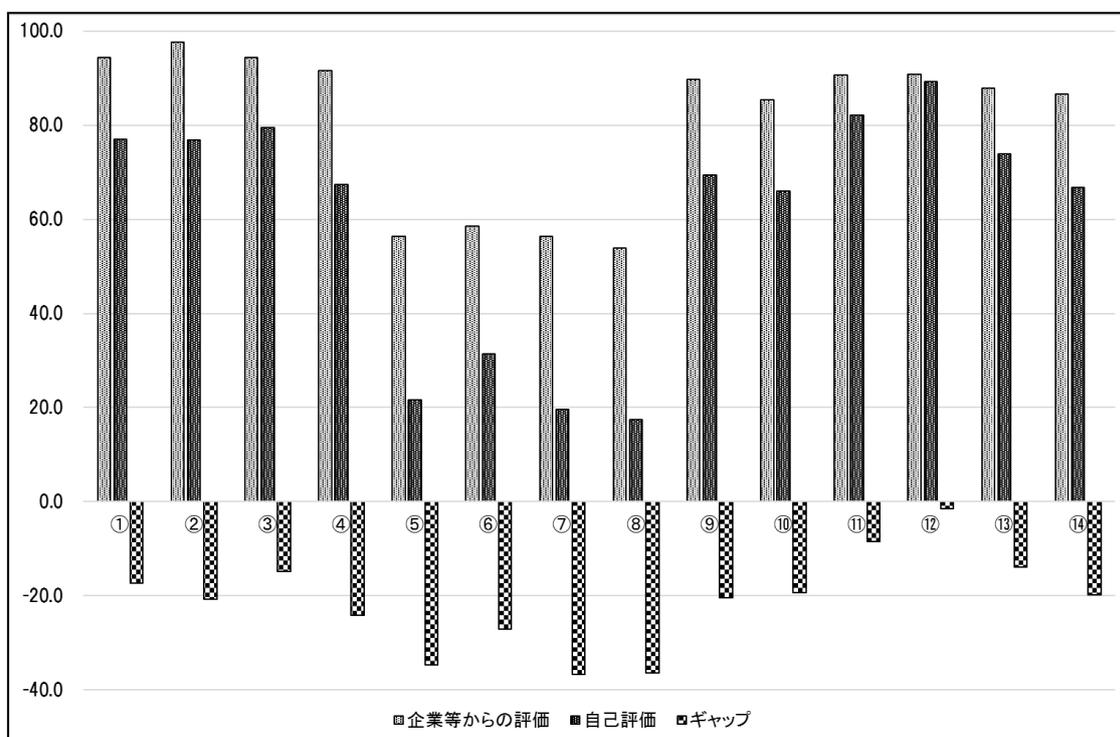
【優れた点】

卒業生に対する企業等の満足度が高い。また、各能力に分けてみた場合も、総じて高い評価を得ている。

【改善を要する点】

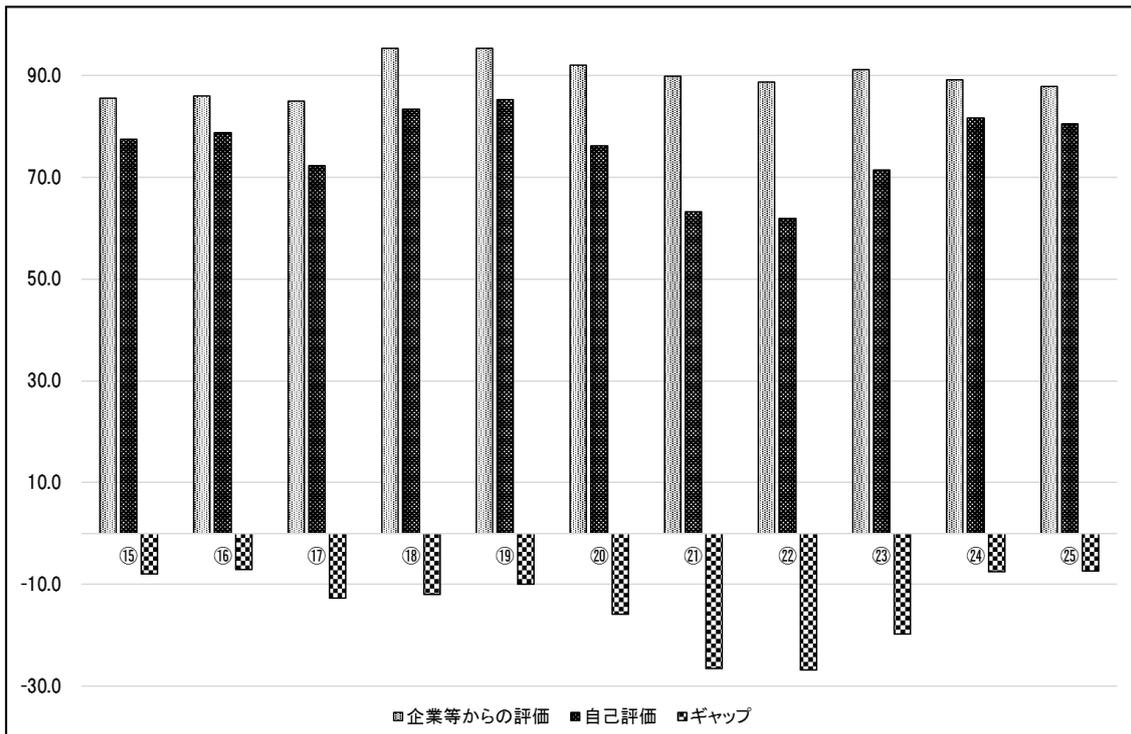
大学教育を通しての外国語運用能力の育成が課題。地域理解については、それらの能力の育成を目的としたカリキュラムが大学に用意されていることを明示する必要がある。

【参考資料】



注：各番号は次のとおり対応している。①日本語を用いて、自分の意見をわかりやすく文章にまとめる力、②日本語で書かれた文章の内容を的確に読み取る力、③相手の意見を丁寧に聴く力、④日本語を用いて、自分の意見をわかりやすく伝える力、⑤特定の外国語を用いて、自分の意見をわかりやすく文章にまとめる力、⑥特定の外国語で書かれた文章の内容を的確に読み取る力、⑦特定の外国語を用いた相手の意見を聞き取る力、⑧特定の外国語を用いて、自分の意見をわかりやすく伝える力、⑨情報通信技術を用いて情報を収集・分析し、モラルに則って効果的に活用する力、⑩様々な現象を、数量的なデータを用いて分析し、説明・表現する力、⑪幅広い知識や教養、⑫専門分野に関する基礎的な知識・理解、⑬専門分野に関する知識・理解を応用する力、⑭職業に関連する知識や技能。値はそれぞれ「企業からの評価」は、「身につけている」「どちらかといえば身につけている」の合計値を、「自己評価」は「身についた」「どちらかといえば身についた」の合計値を示している。「ギャップ」は両項目の差である。

図表5. 企業等からの評価と大学教育で身についた能力（①～⑭）



注：各番号は次のとおり対応している。⑮目標を設定し確実に行動する力、⑯現状を分析し目的や課題を明らかにする力、⑰課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力、⑱社会のルール・マナーについて理解する力、⑲社会のルールを守る力、⑳社会の一員として、社会発展のために積極的に関与する力、㉑地域に貢献したいという意識、㉒地域の風土・文化の特徴や強みを理解する力、㉓多様な価値観を尊重し、異なる文化を理解する力、㉔物事に進んで取り組む力、㉕自ら考え、学ぶことの意義を理解し、主体的に学ぶ力。値はそれぞれ「企業からの評価」は、「身につけている」「どちらかといえば身につけている」の合計値を、「自己評価」は「身についた」「どちらかといえば身についた」の合計値を示している。「ギャップ」は両項目の差である。

図表 6. 企業等からの評価と大学教育で身についた能力（⑮～㉕）

<図表 5、図表 6 について>

・企業等からの評価

総じて高い評価（85%超）

ただし、外国語運用能力の評価が低い（5割台）

・ギャップ

差が小さいのは、「専門分野に関する知識・理解」（1.6）「現状を分析し目標や課題を明らかにする力」（7.2）「自ら考え、学ぶことの意義を理解し、主体的に学ぶ力」（7.3）「物事に進んで取り組む力」（7.5）「目標を設定し確実に実行する力」（8.0）「幅広い知識や教養」（8.6）。

差が大きいのは、外国語運用能力と「地域の風土・文化の特徴や強みを理解する力」（26.8）「地域に貢献したいという意識」（26.6）。これらは、卒業生の自己評価に対して、企業等の評価が高い能力。就職先で求められる程度は身につけているということ。地域関連の項目については、主題 C 基礎科目の必修等、カリキュラムの充実によってポイント差の縮小が期待される。

	満足	ある程度満足	やや不満	不満	合計
該当者割合(%)	50.7	45.2	4.1	0.0	100.0
実数(人)	110	98	9	0	217

図表7. 卒業生に対する満足度

<図表7について>

・「満足」50.7%、「ある程度満足している」45.2%であり、合計すると95%以上が満足